図版 3

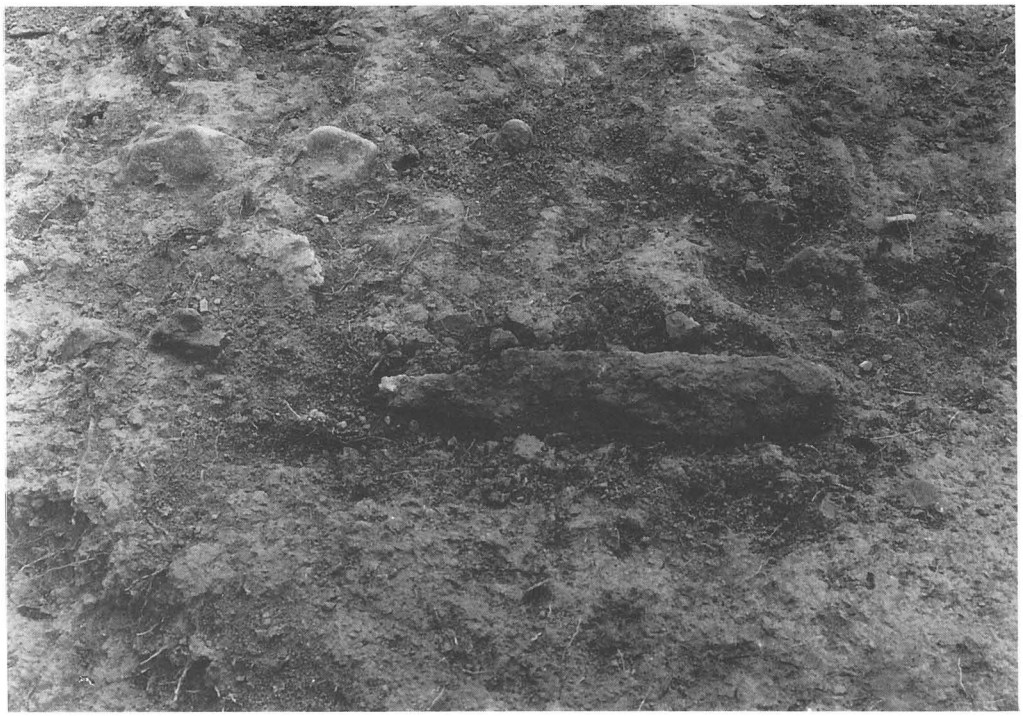
2 号墳主体部内土層堆積状況

2 号墳主体部遺物出土状況

2 号墳土師器出土状況

2 号墳玉類下部木質遺存状況

図版 5



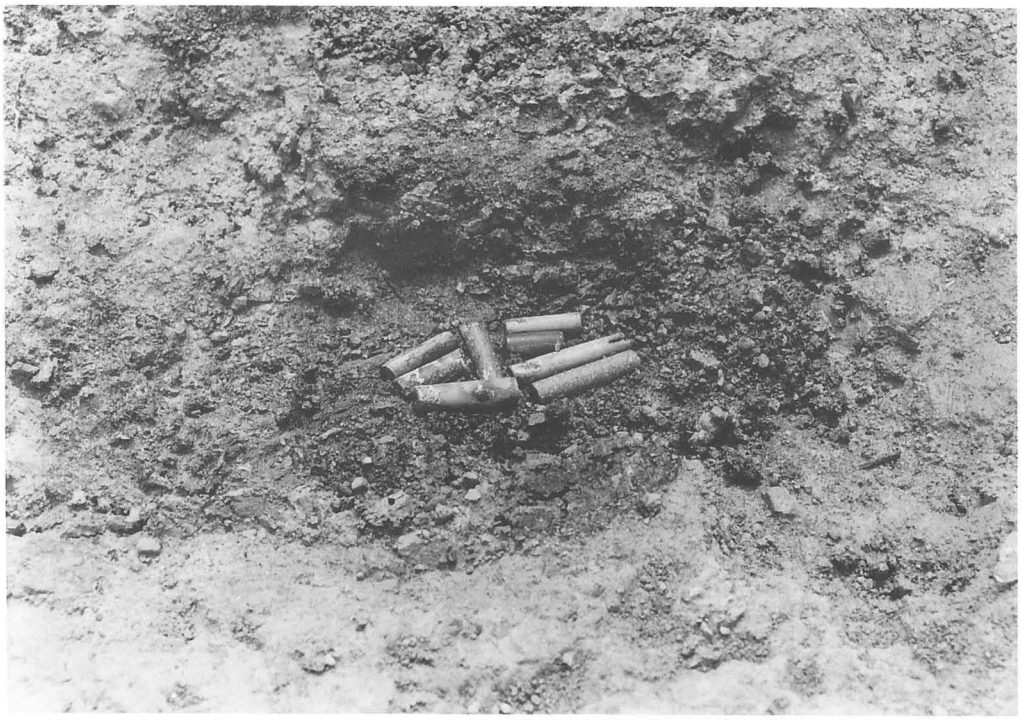
2 号墳棺外鉄剣出土状況

2 号墳棺内鉄刀出土状況

2 号墳四神形鏡・鉄斧出土状況(1)

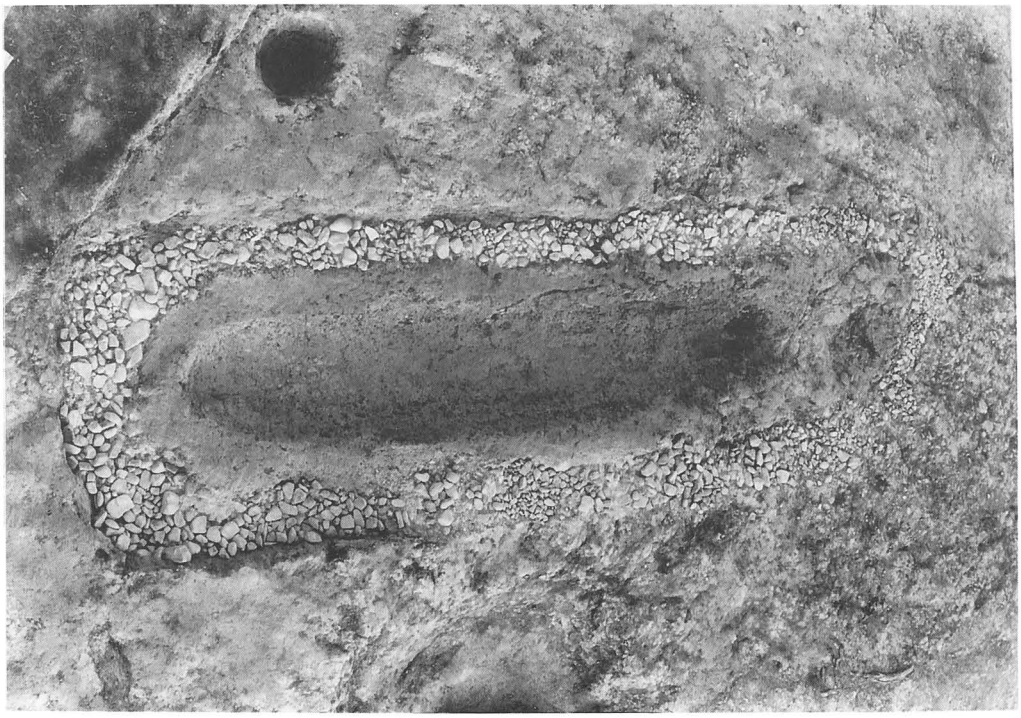
2 号墳四神形鏡・鉄斧出土状況(2)

図版 7



2 号墳管玉出土状況

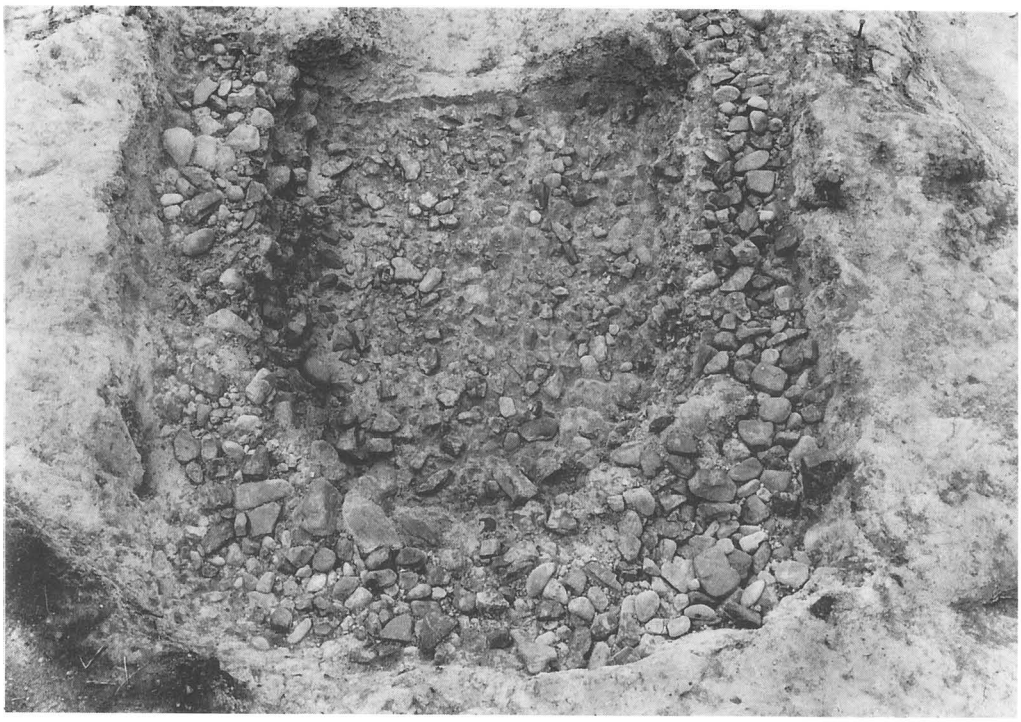
2 号墳勾玉出土状況



2 号墳粘土棺床検出状況(1)

2 号墳粘土棺床検出状況(2)

図版 9



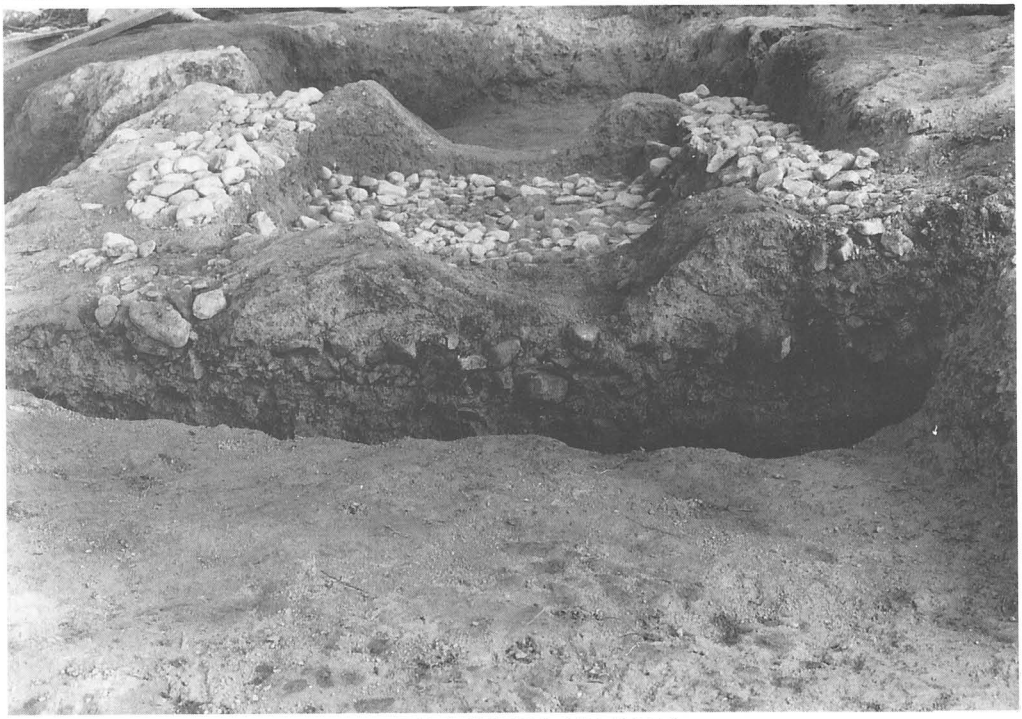
2 号墳主体部基底部礫検出状況(1)

2 号墳主体部基底部礫検出状況(2)

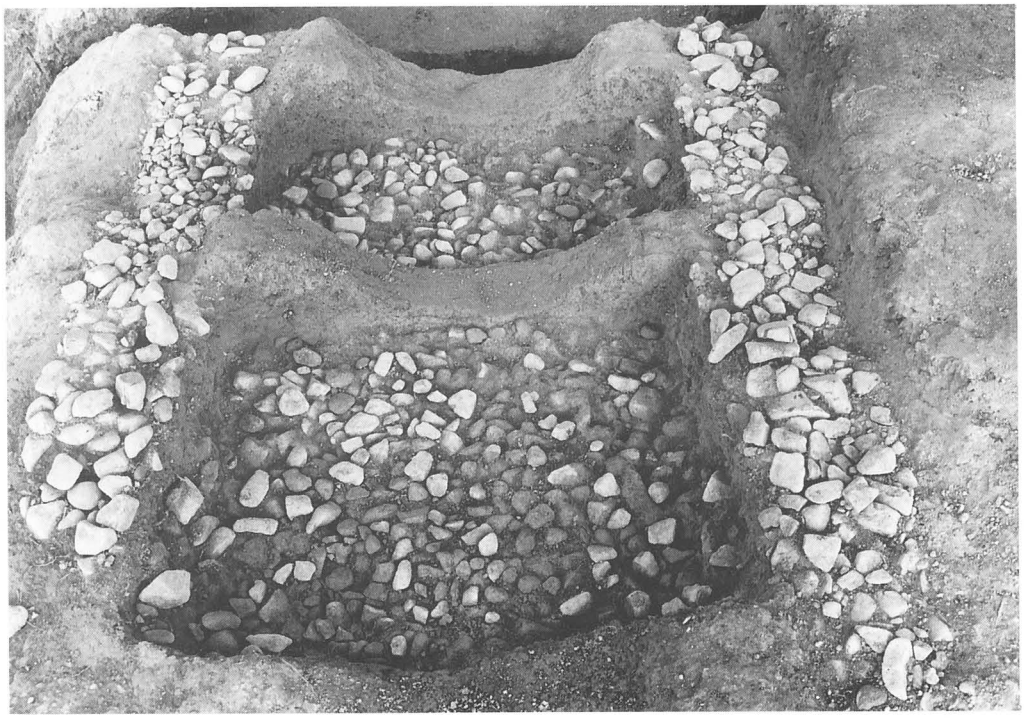
2号墳主体部断ち割り状況(1)

2号墳主体部断ち割り状況(2)

図版11



2号墳主体部断ち割り状況(3)

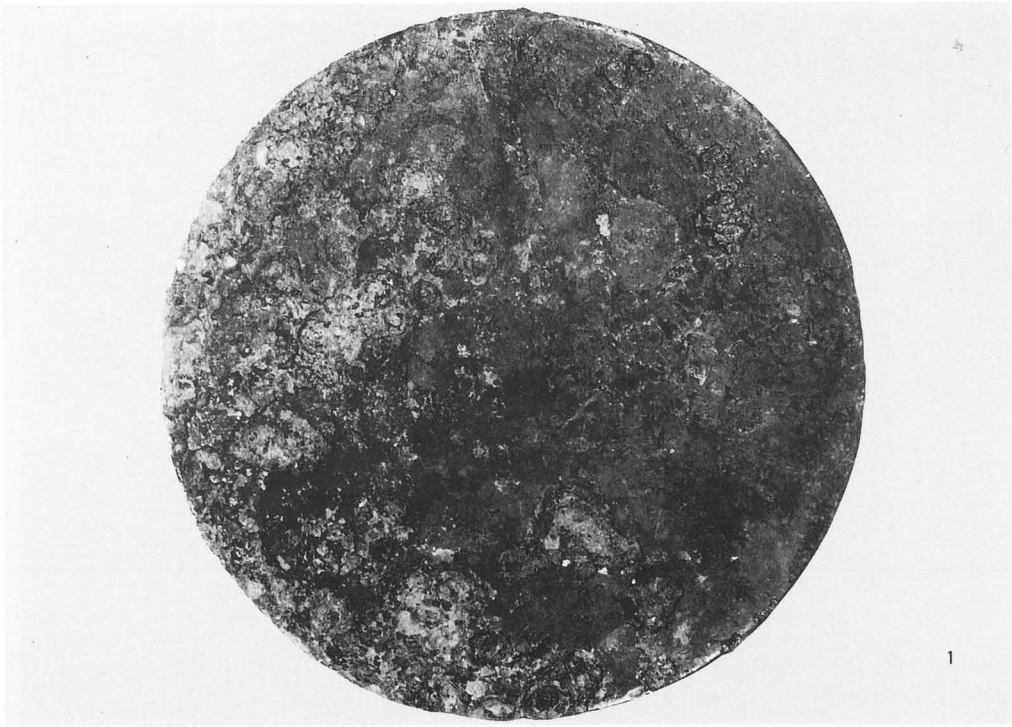


2号墳主体部断ち割り状況(4)

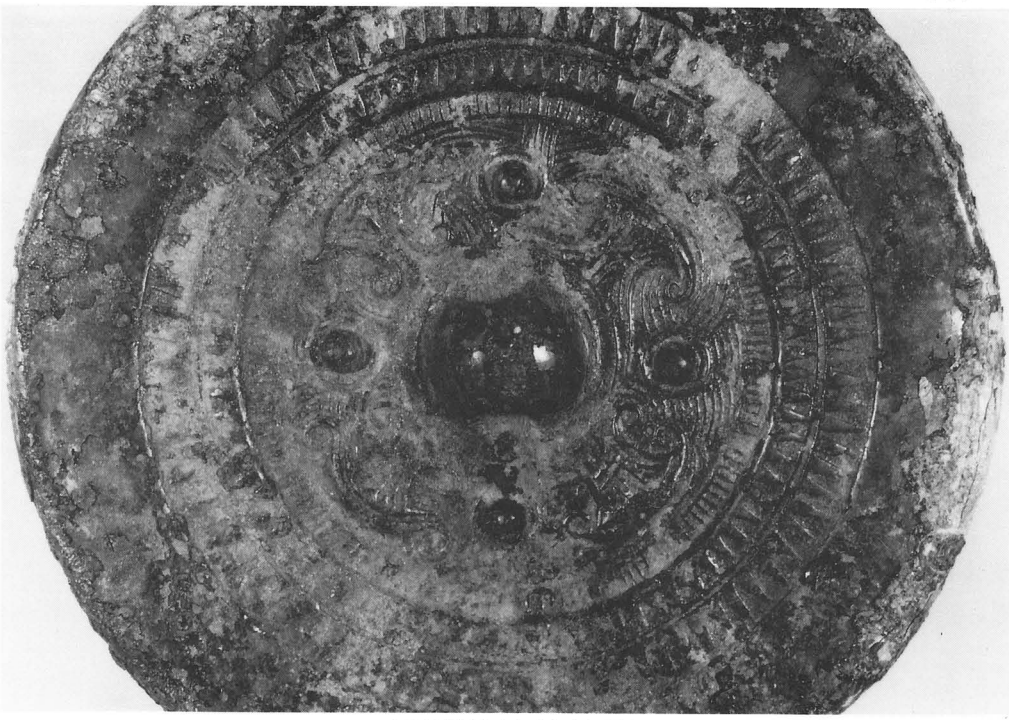
2号墳主体部断ち割り状況(5)

2号墳主体部断ち割り状況(6)

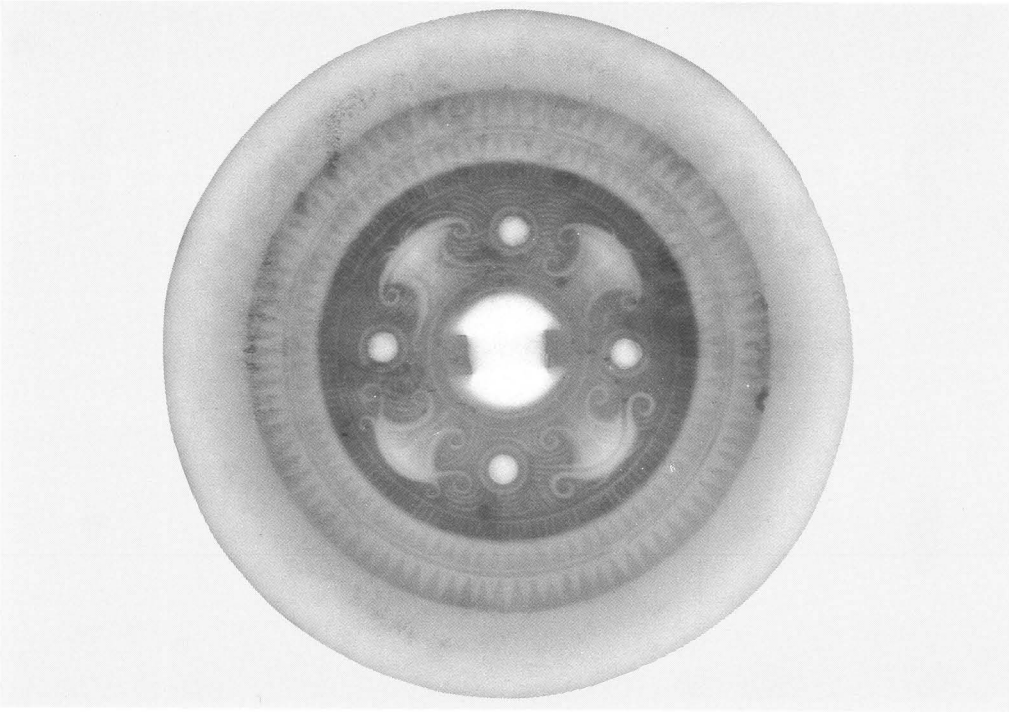
図版13



2号墳出土遺物(1)四神形鏡

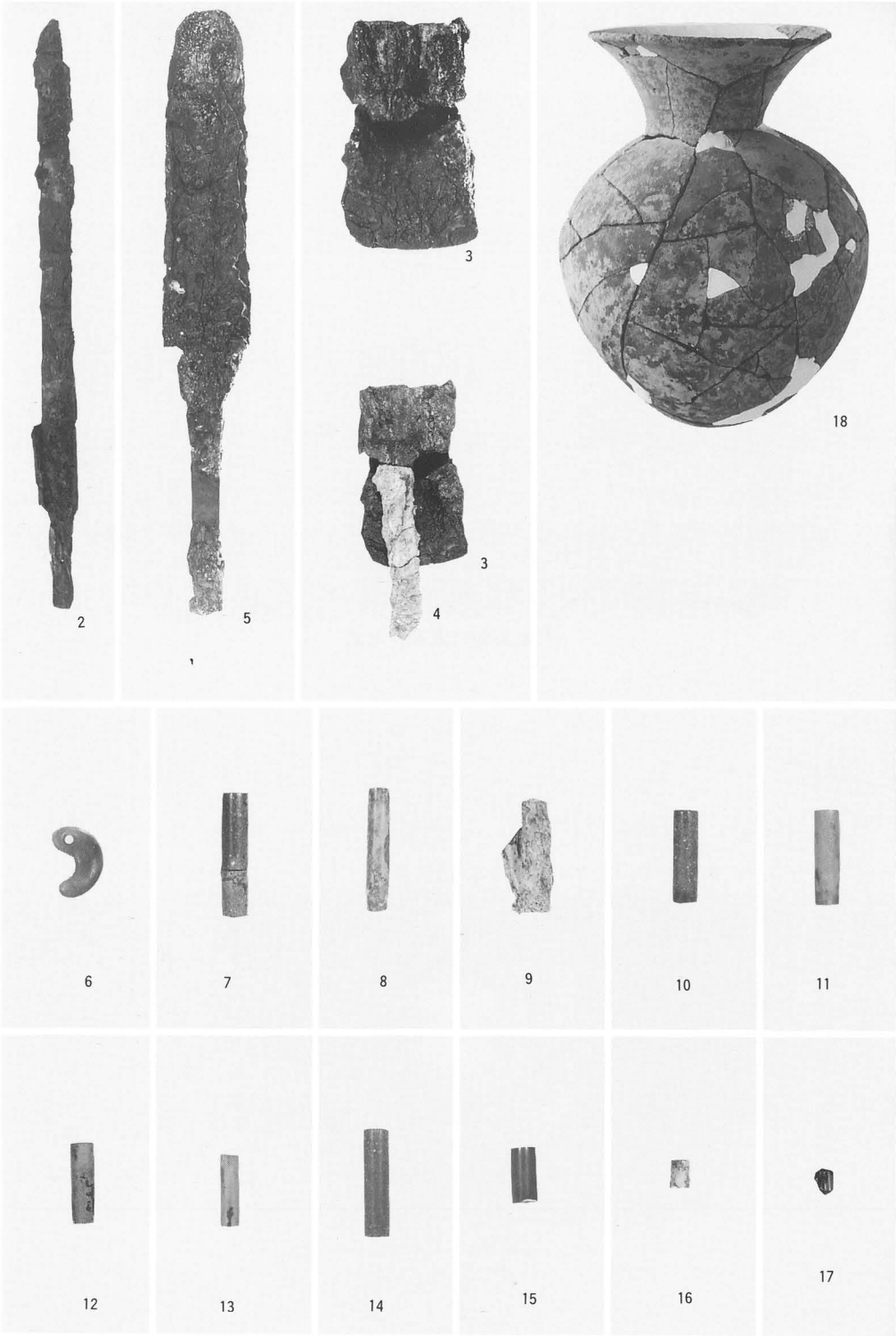


四神形鏡内区拡大写真



四神形鏡Ｘ線写真

図版15



2号墳出土遺物(2)

3号墳主体部検出状況(1)

3号墳主体部検出状況(2)

図版17

3号墳石室上部土層堆積状況

3号墳周溝土層堆積状況

3 号墳遺物出土状況(1)

3 号墳遺物出土状況(2)

図版19

3 号墳遺物出土状況(3)

3 号墳第 1 次床面検出状況

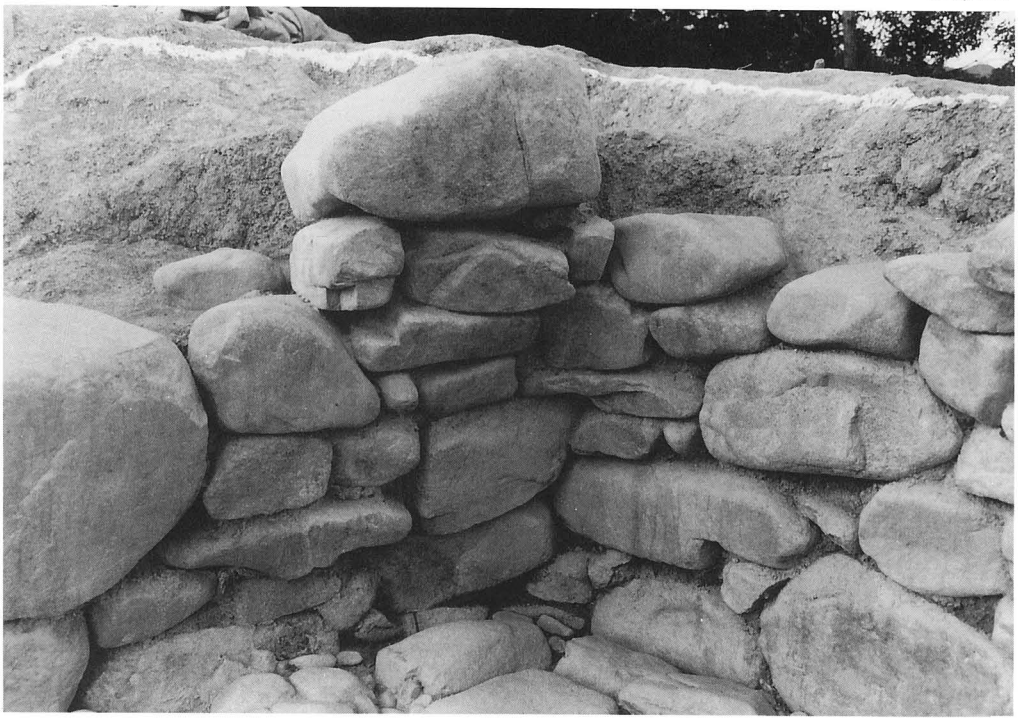
3号墳玄室

3号墳右側壁

図版21

3号墳左側壁

3号墳奥壁

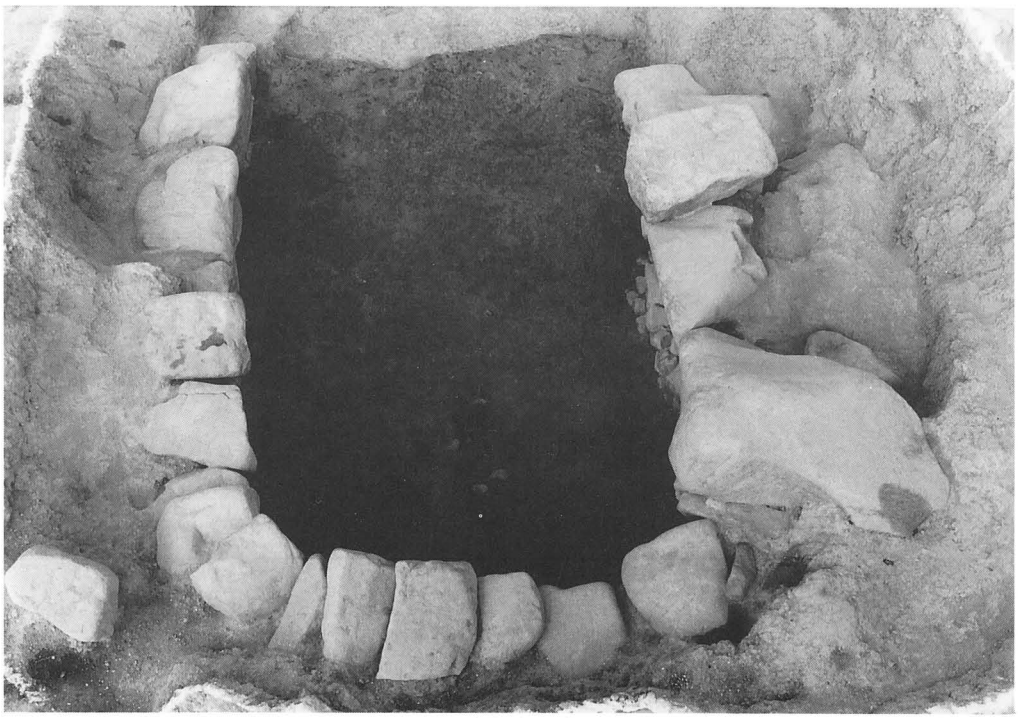


3号墳奥壁右隅

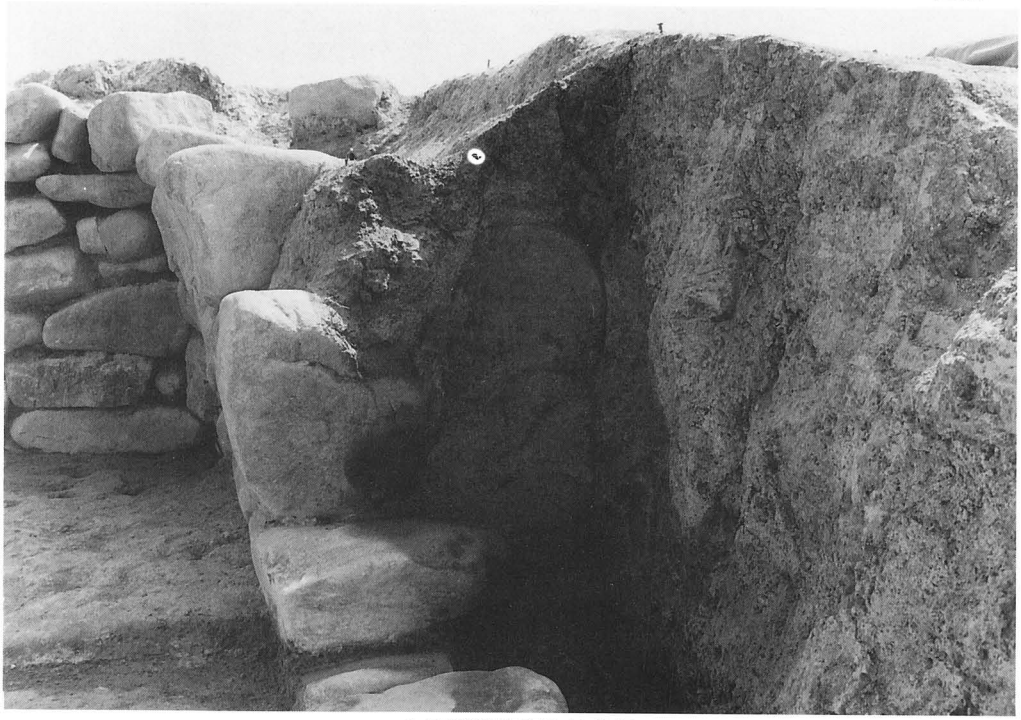
3号墳奥壁左隅

図版23

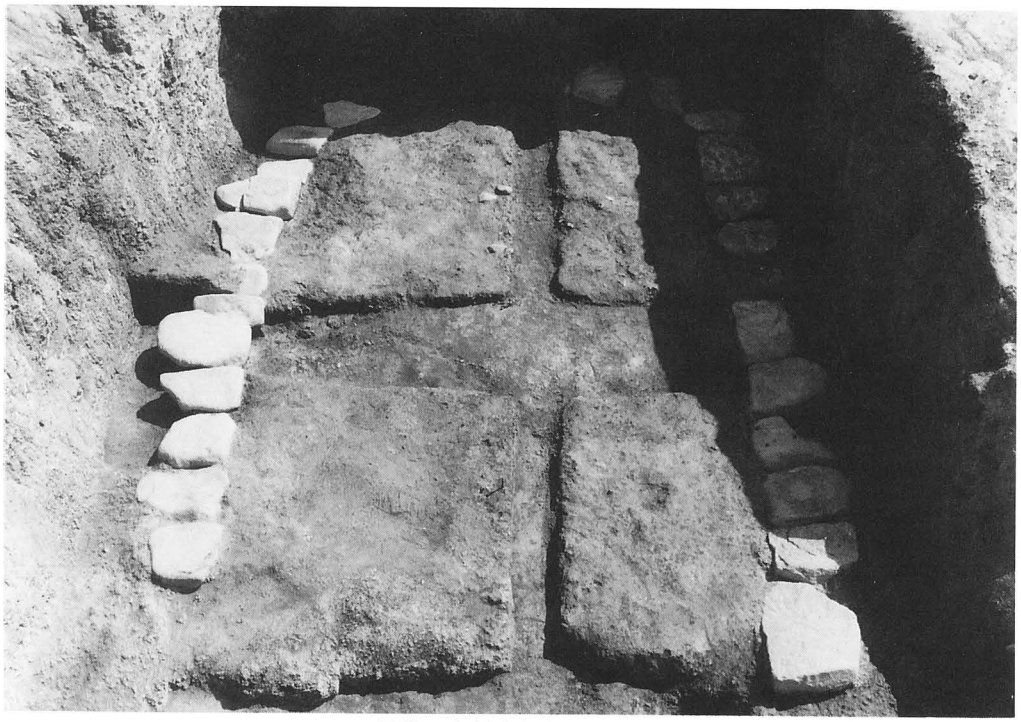
3 号墳礫床除去状況(1)



3 号墳礫除去状況(2)



3号墳側壁裏込め状況

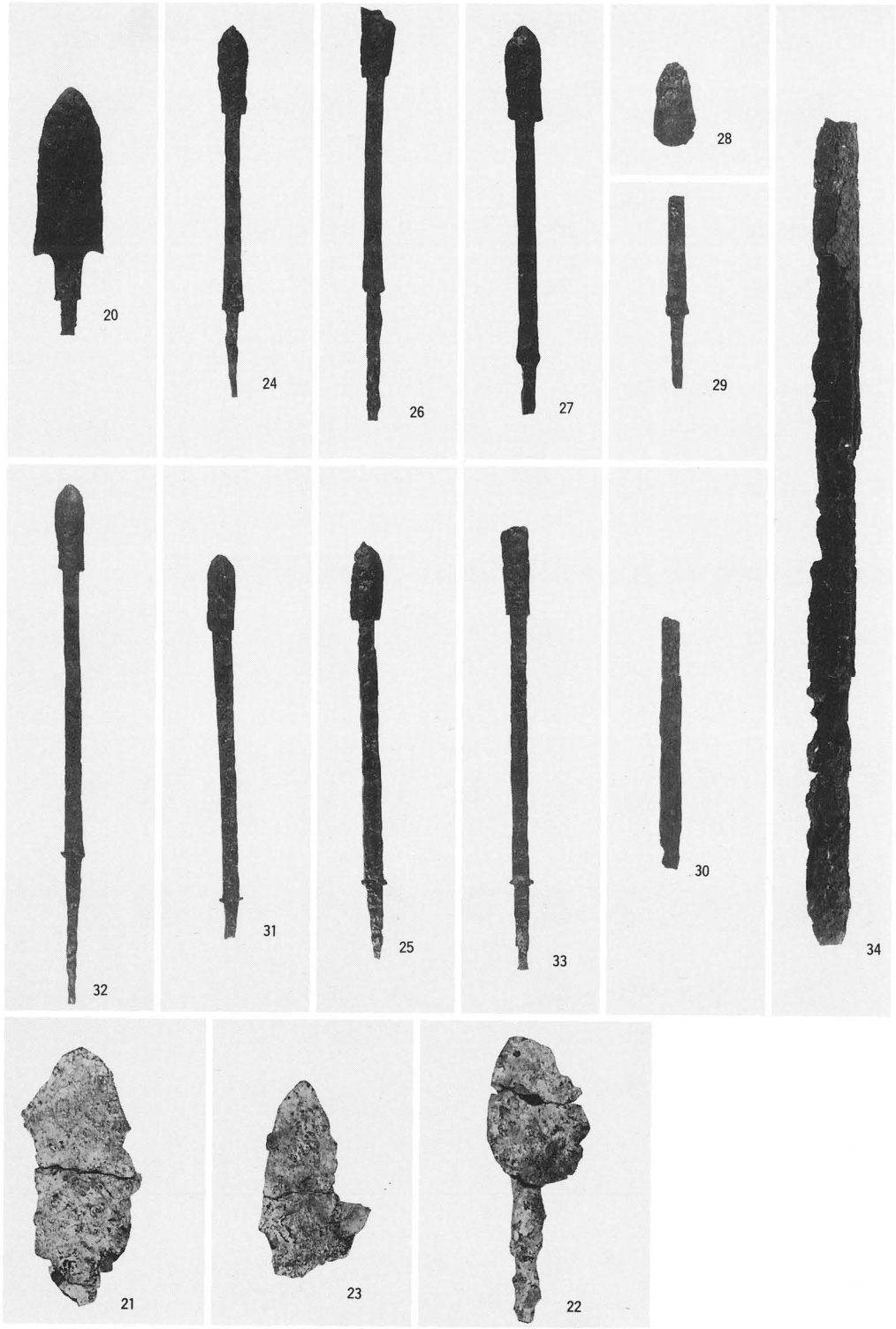


3号墳石室基底部敷石検出状況

図版25

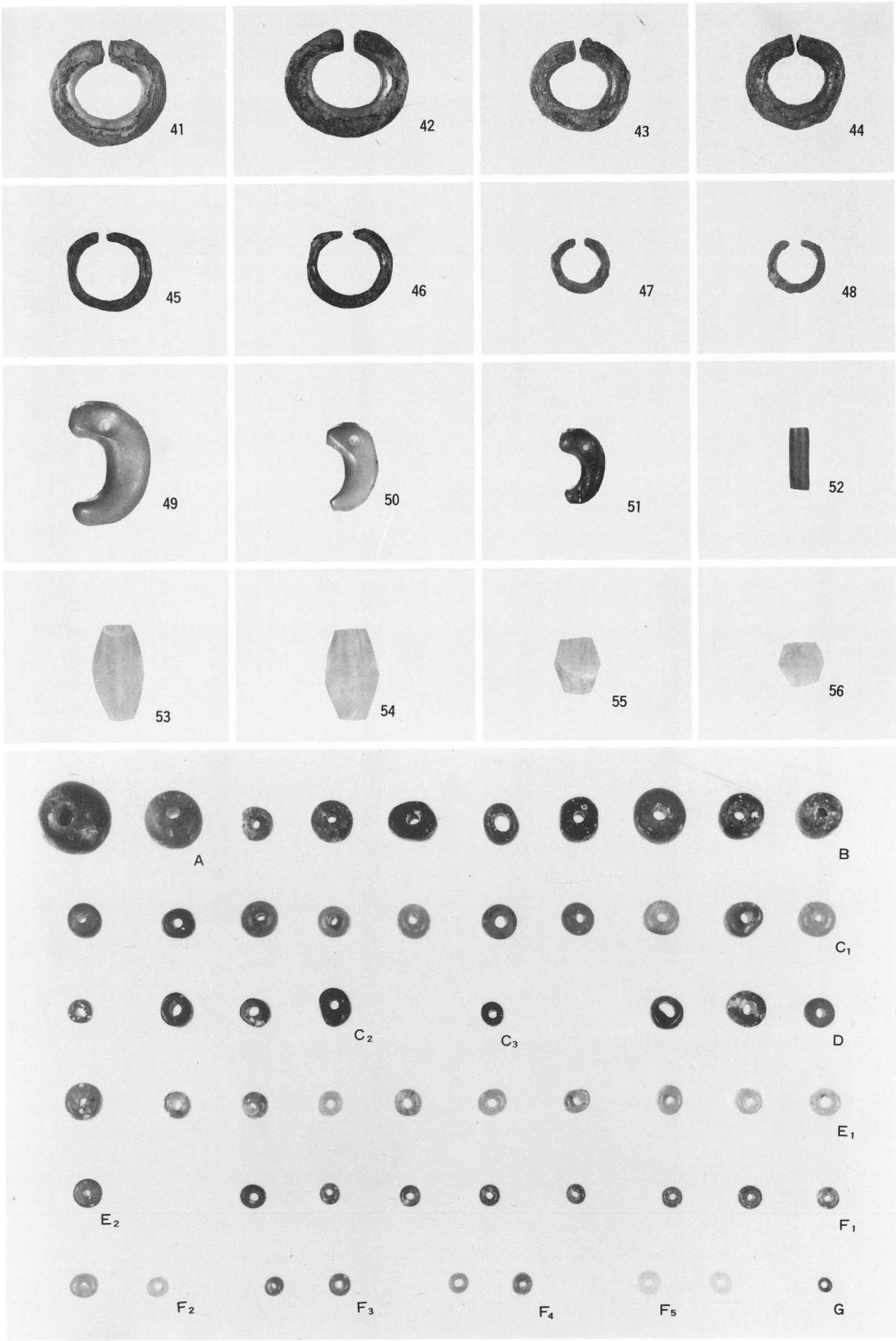
3号墳全景

3号墳断ち割り状況

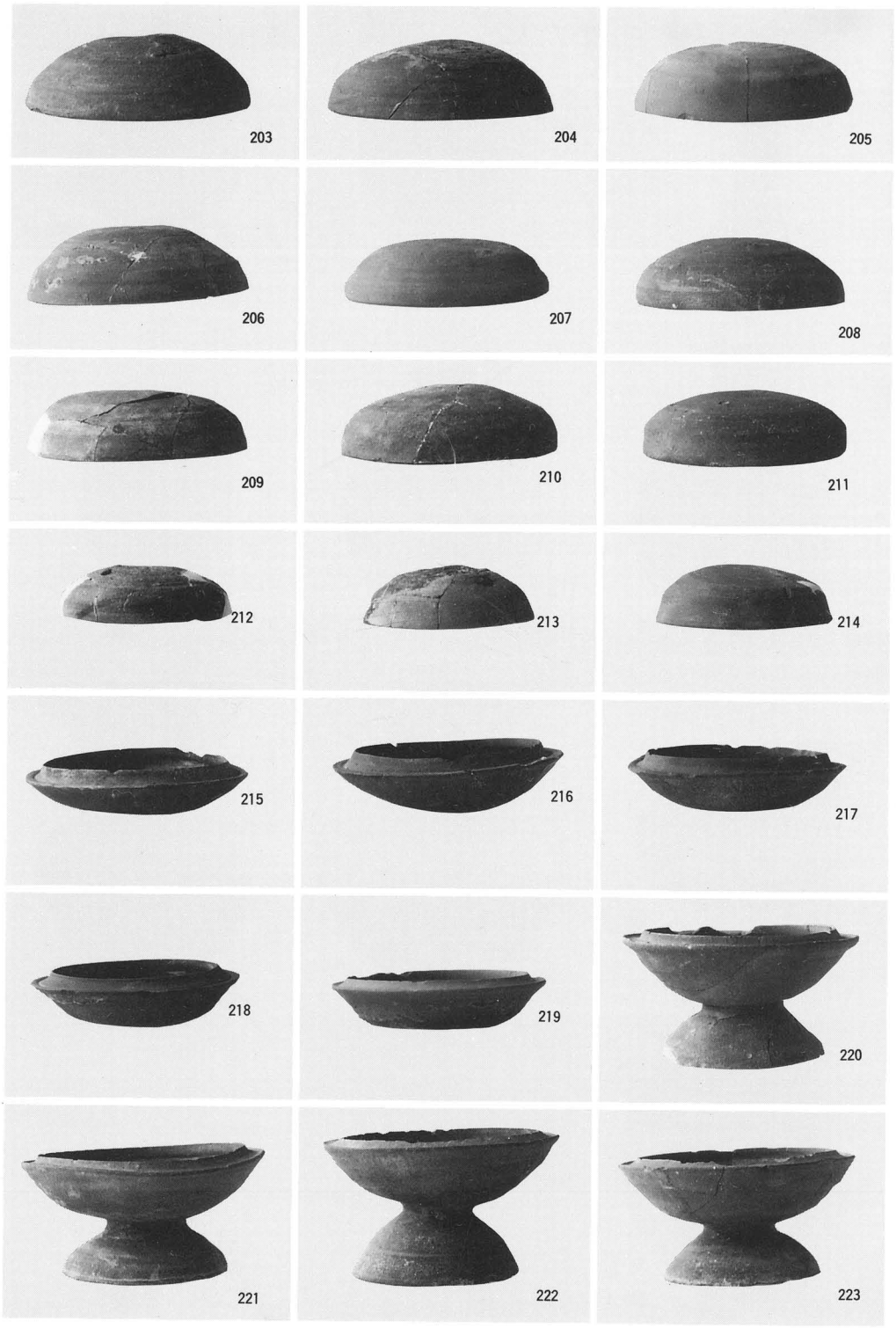


3 号墳出土遺物(1)鉄器

図版27



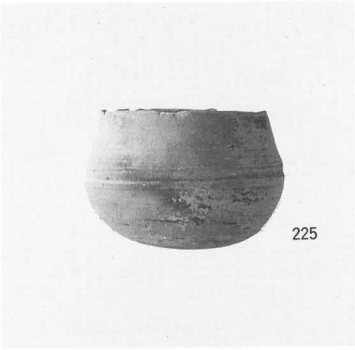
3号墳出土遺物(2)装身具



3号墳出土遺物(3)須恵器

図版29

224


225

226

227

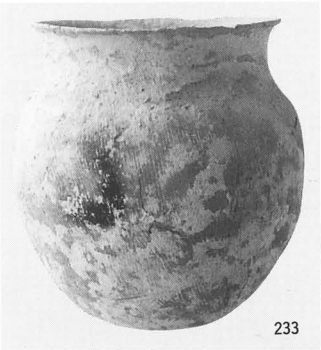
228

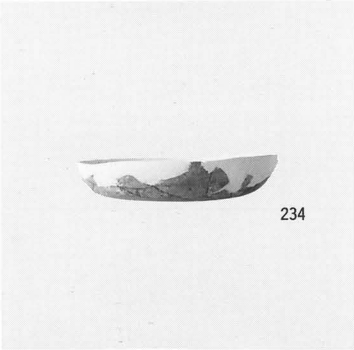
229

230

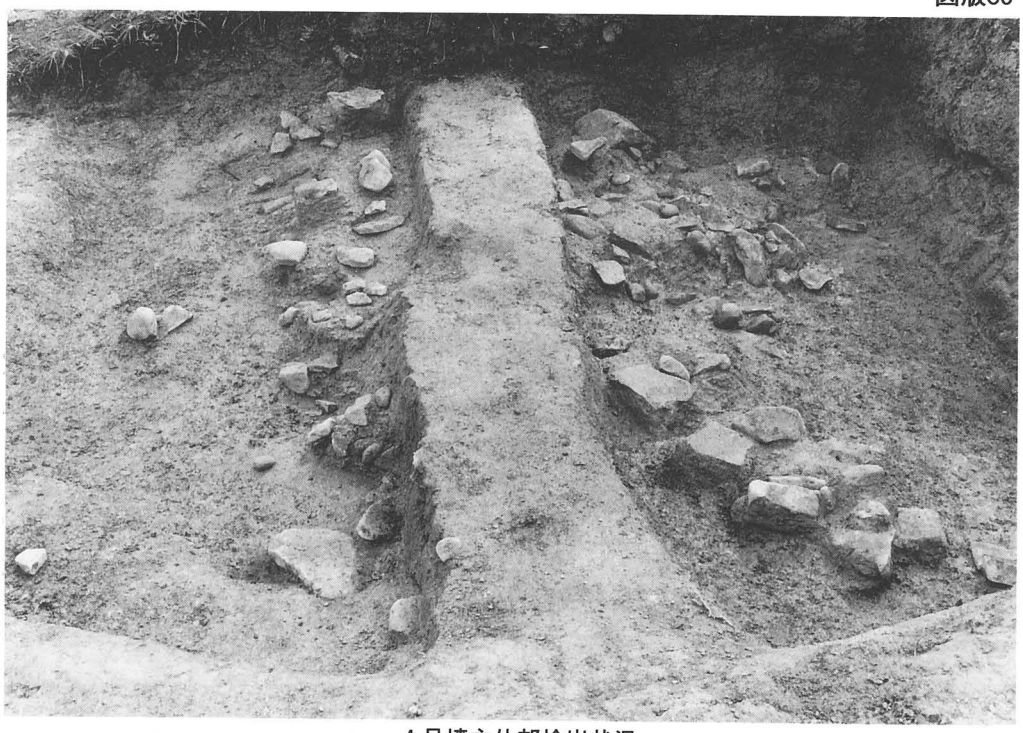
231

232


233


234

3号墳出土遺物(4)須恵器・土師器

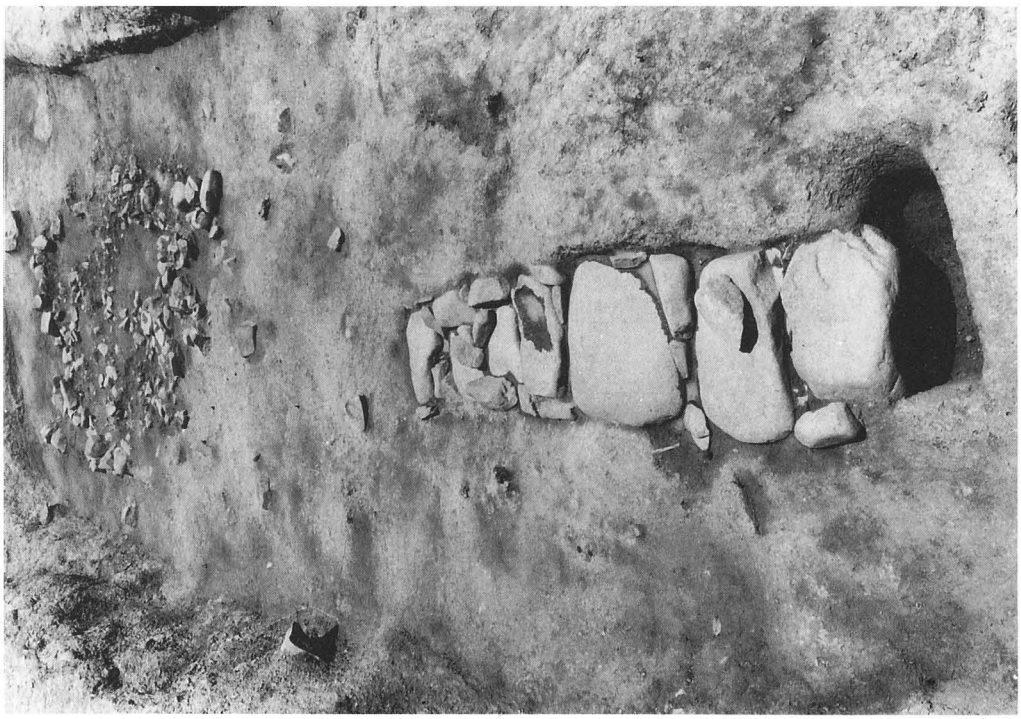


4 号墳主体部検出状況

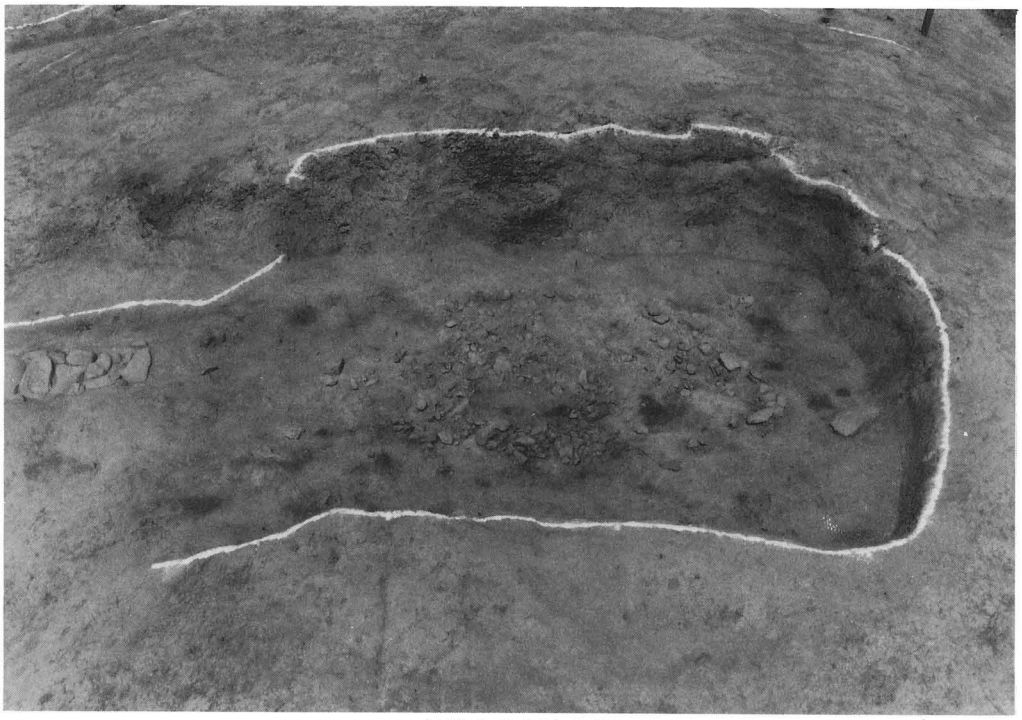
4 号墳排水溝遺物出土状況(1)

図版31

4号墳排水溝遺物出土状況(2)



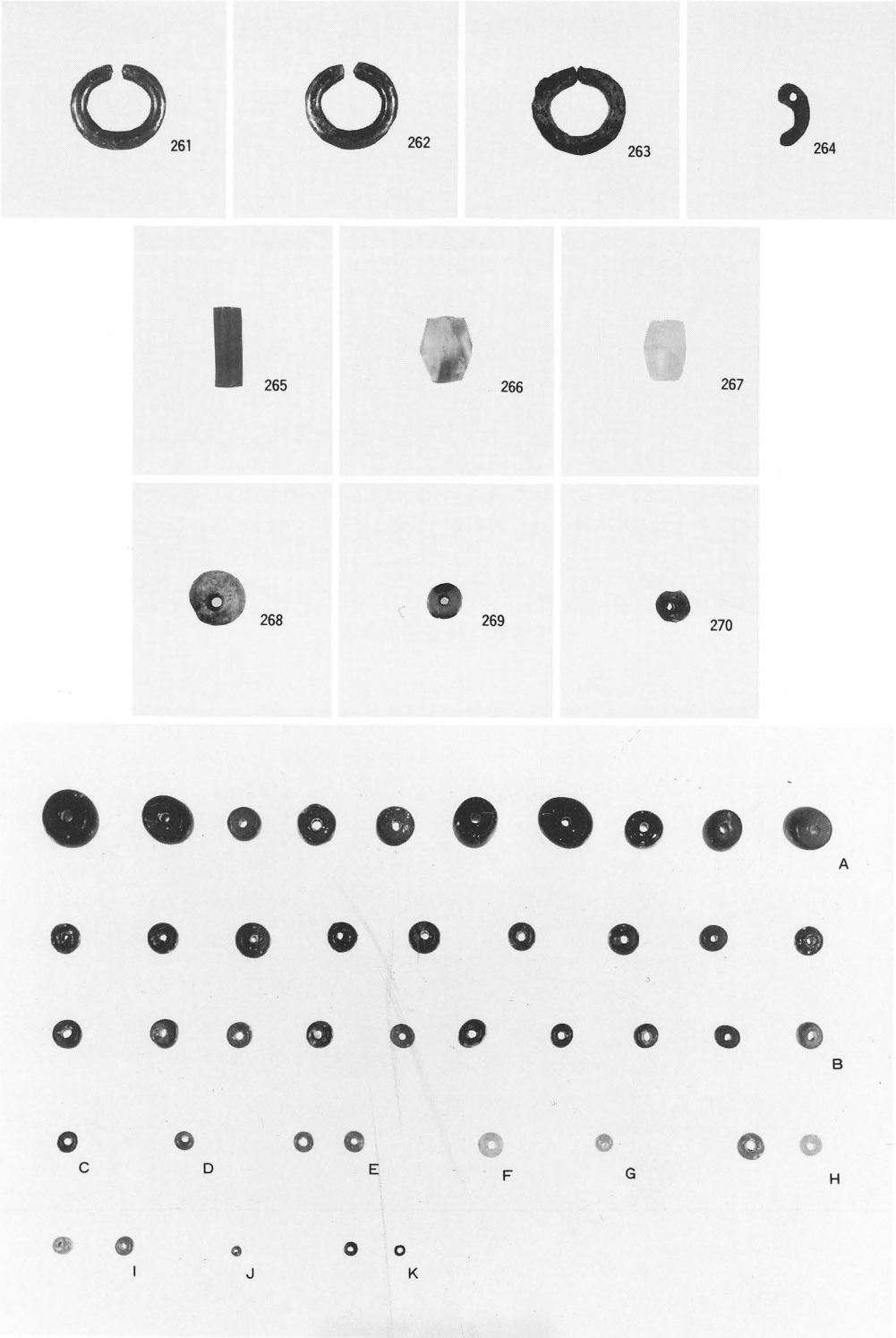
4号墳排水溝検出状況



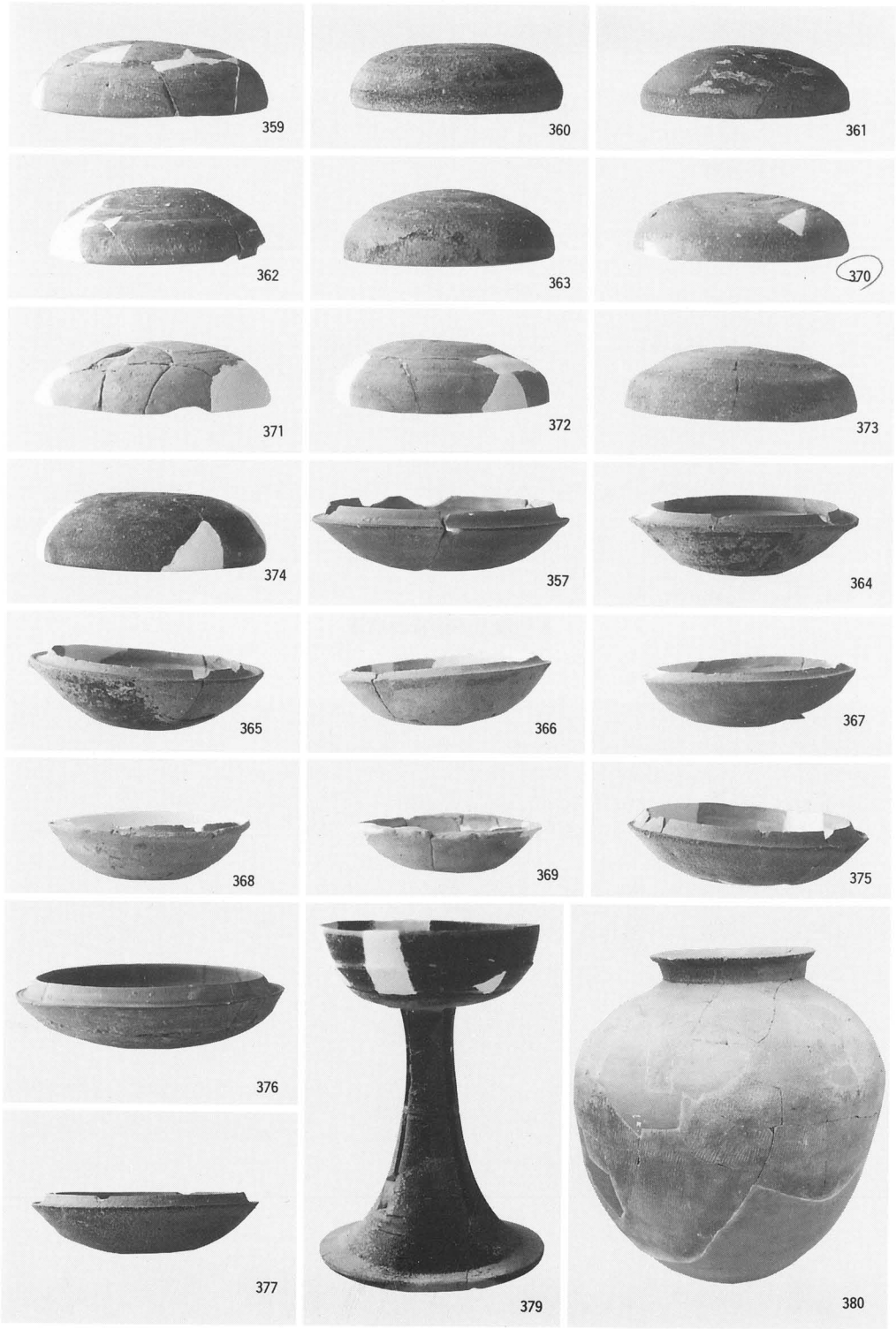
4号墳主体部検出状況

4号墳全景

図版33



4号墳出土遺物(1)装身具



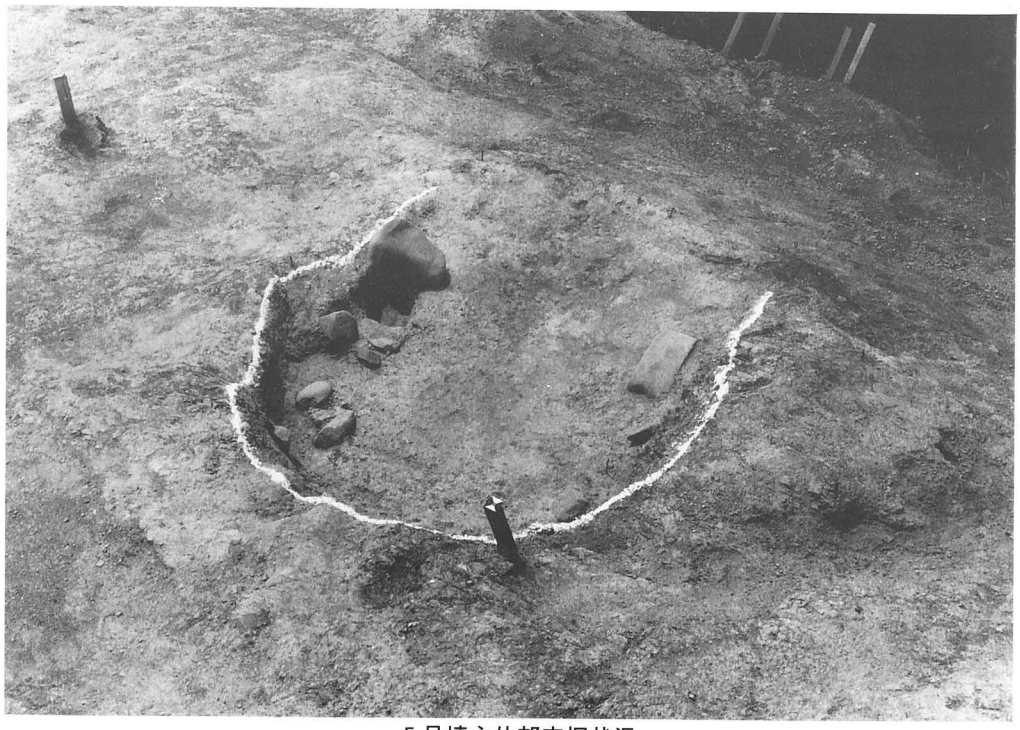
4 号墳出土遺物(2)須恵器

図版35

5号墳主体部検出状況

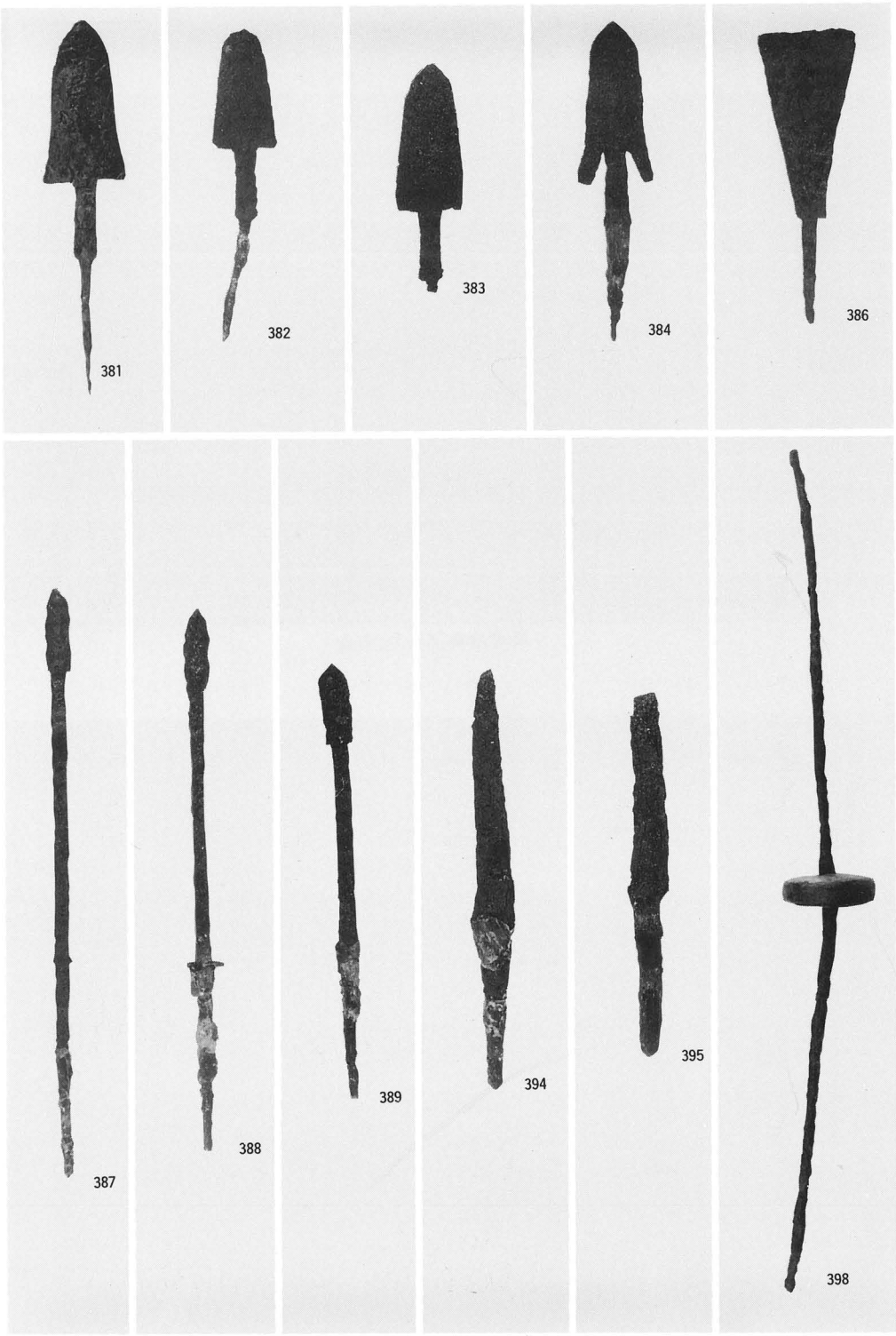
5号墳遺物出土状況(1)

5号墳遺物出土状況(2)

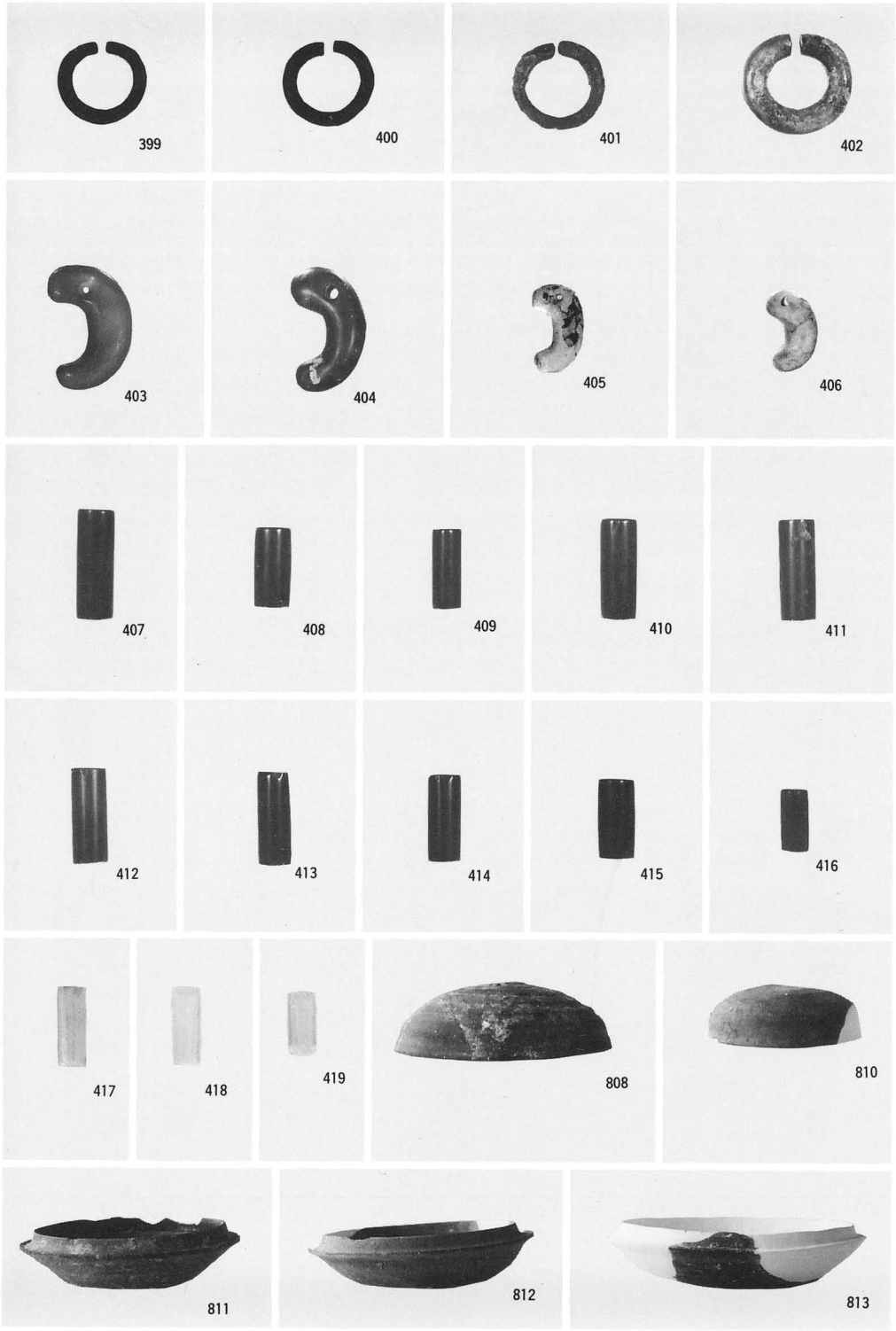


5号墳主体部完掘状況

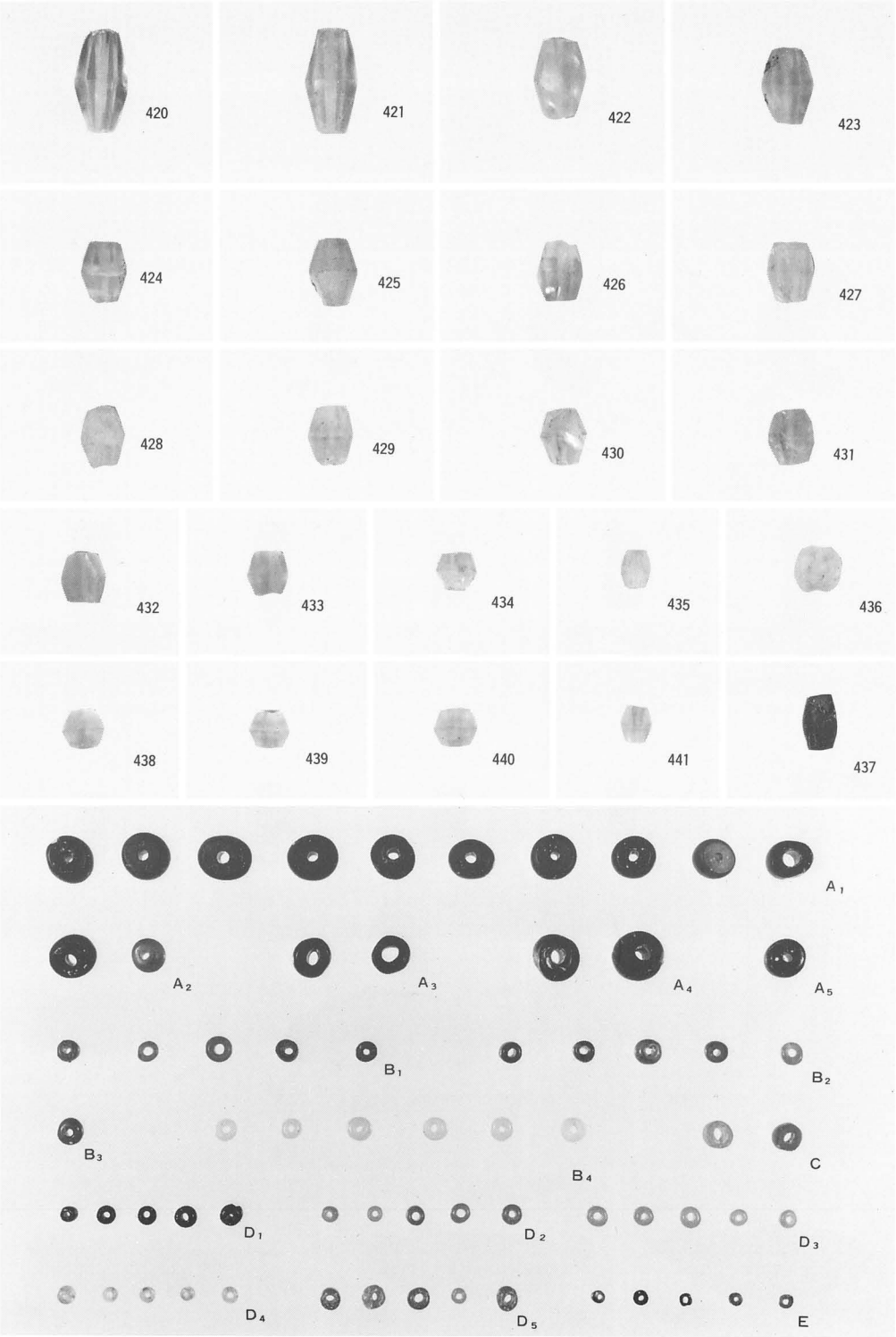
図版37



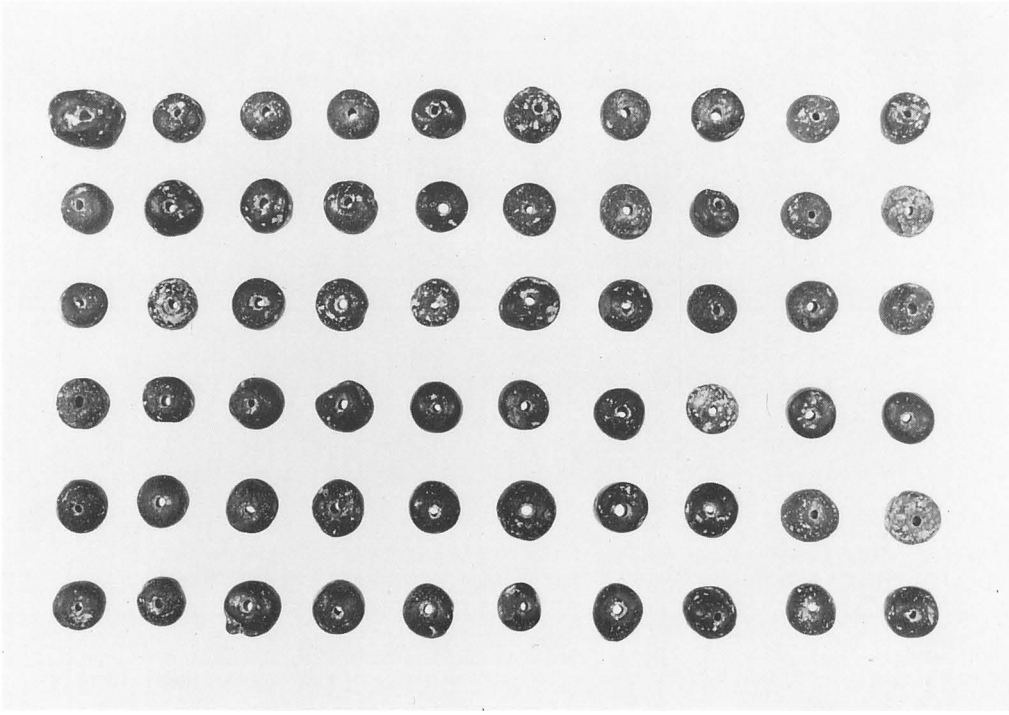
5号墳出土遺物(1)鉄器



5号墳出土遺物(2)装身具・須恵器

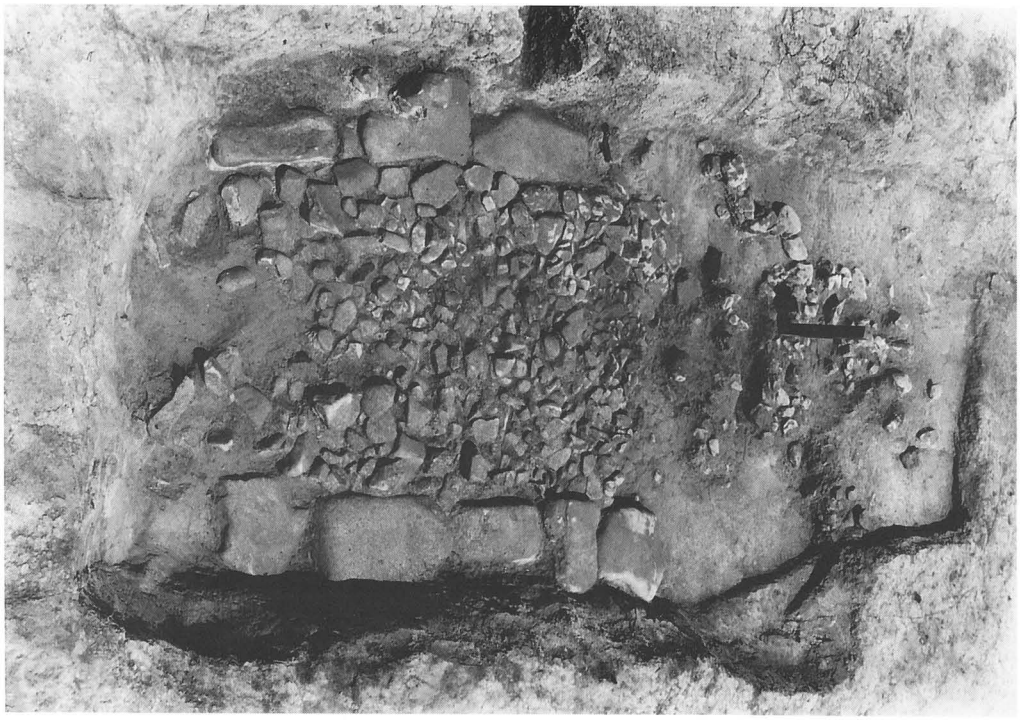


5号墳出土遺物(3)装身具



5号墳出土遺物(4)練玉

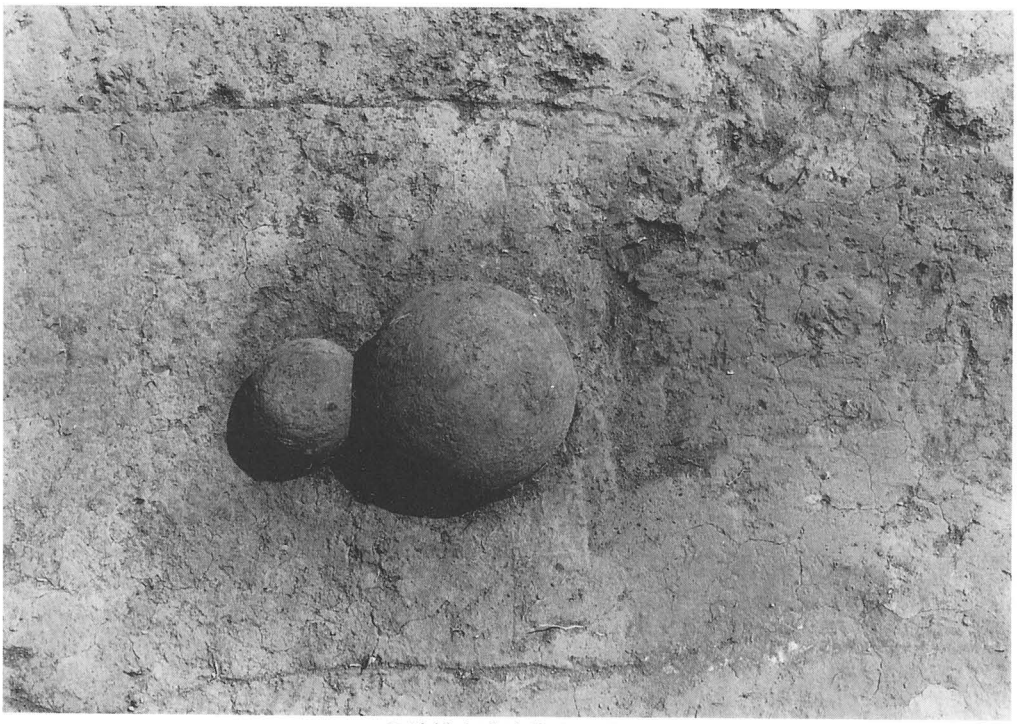
図版41



6 号墳主体部検出状況(1)

6 号墳主体部検出状況(2)

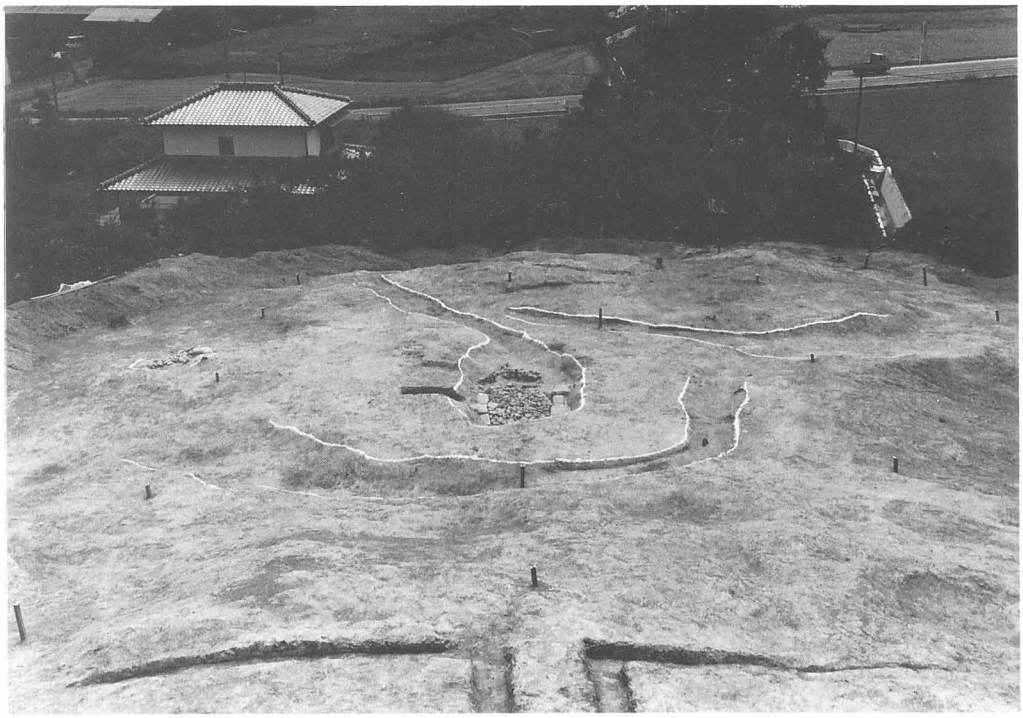
6 号墳排水溝遺物出土状況(1)



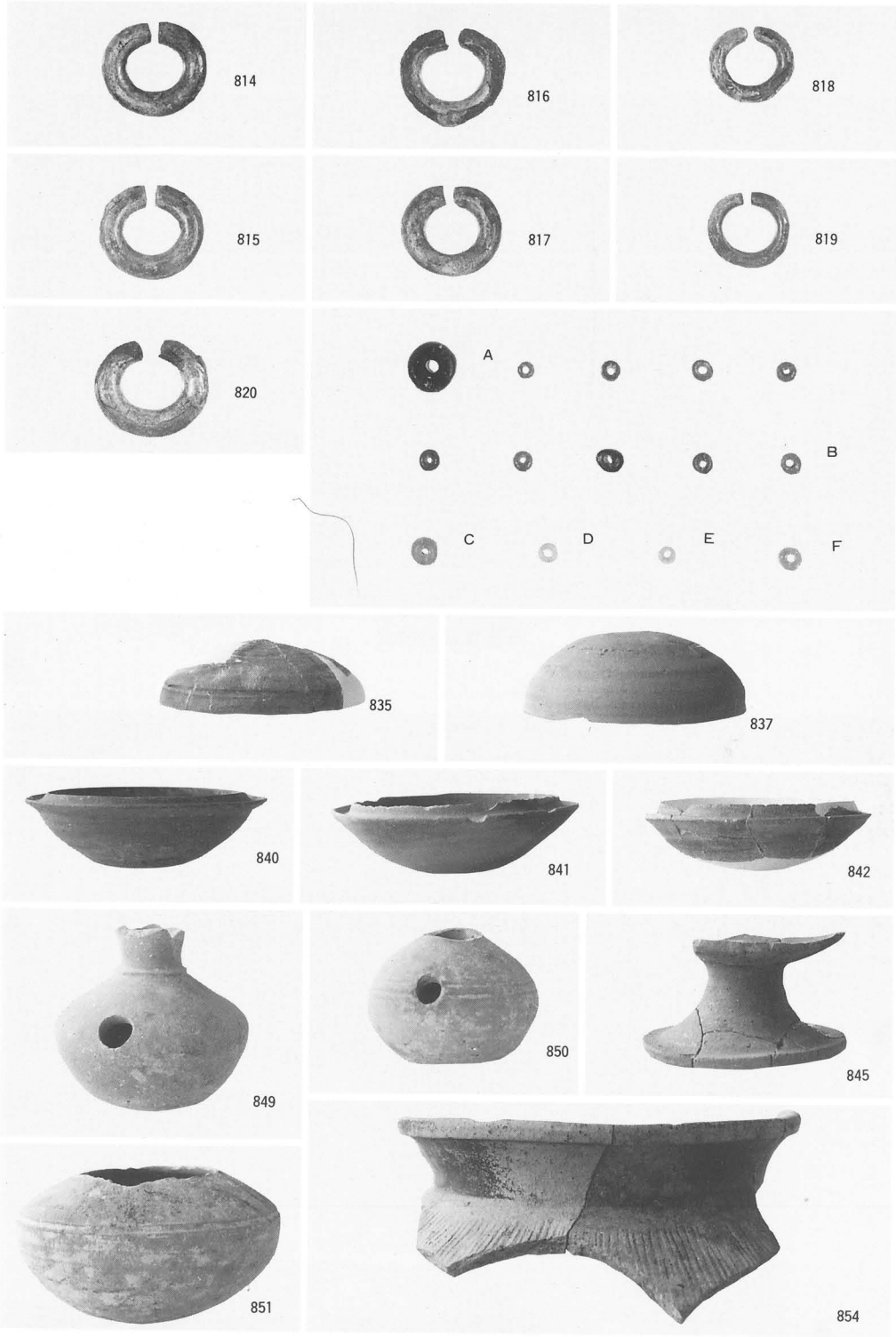
6 号墳排水溝遺物出土状況(2)

図版43

6号墳石室礫床除去状況



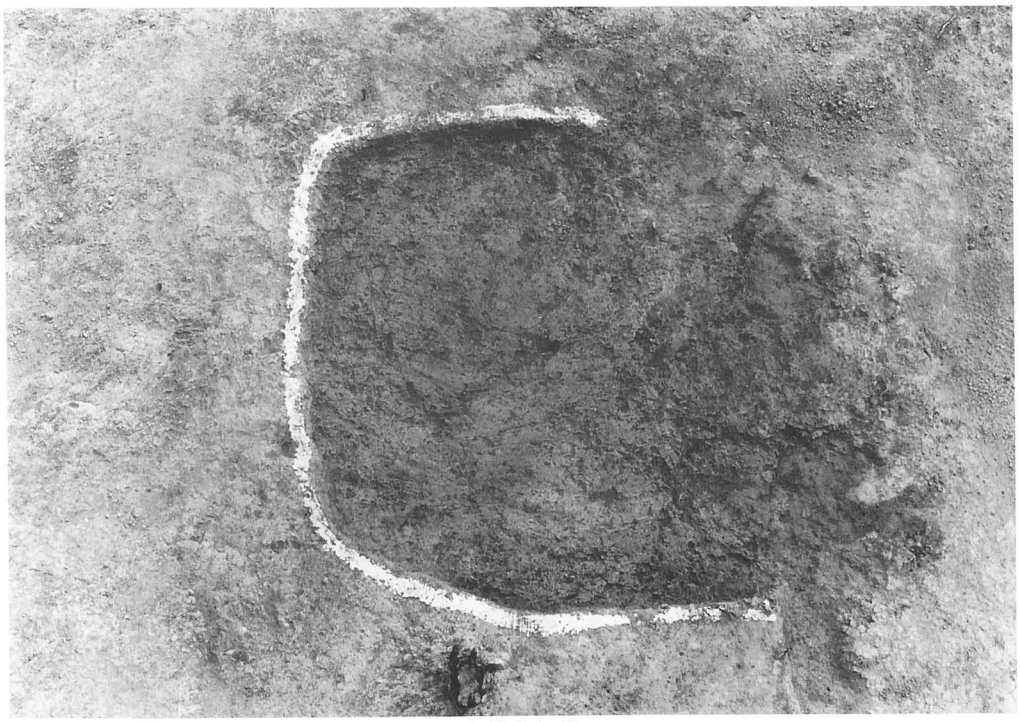
6号墳全景


814
816
818
815
817
819
820
A
B
C
D
E
F
835
837
840
841
842
849
850
845
851
854

6 号墳出土遺物

図版45

石室墓検出状況

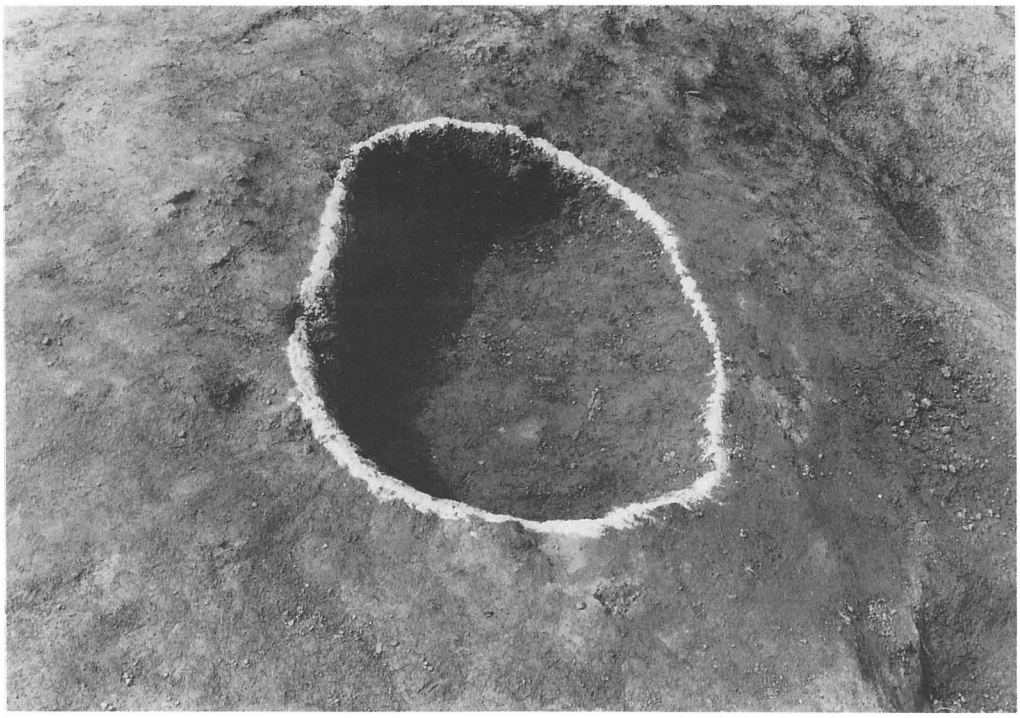


石室墓完掘状況

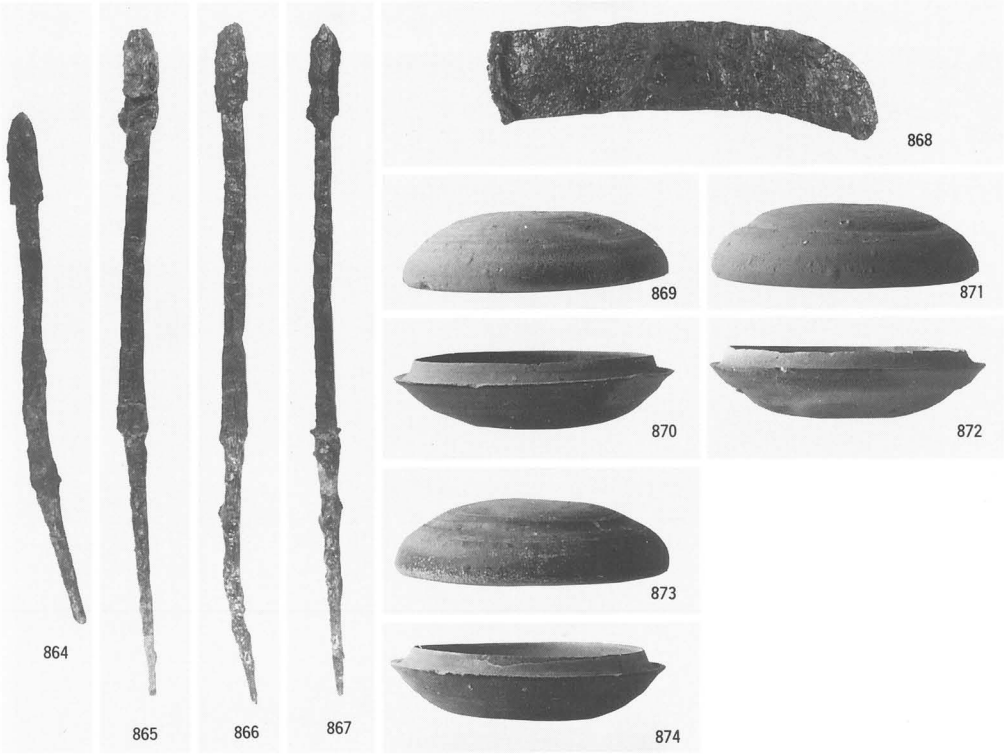
土壙墓遺物出土状況(1)

土壙墓遺物出土状況(2)

図版47



土壙墓完掘状況



土壙墓出土遺物

Ⅳ　蓮華池遺跡（Ⅰ）

1　本章は、四国縦貫自動車道建設に伴う、蓮華池遺跡（Ｉ）の発掘調査報告である。

2　発掘調査及び報告書作成の実地期間は次の通りである。

発掘調査期間　　試掘調査　平成２年６月４日～平成２年６月８日

　　本 調 査　平成２年６月11日～平成２年７月５日

報告書作成期間　　平成４年４月１日～平成５年３月31日

3　遺構表示は、徳島県埋蔵文財センターが定める発掘調査統一基準による略号を用いた。

凡　例

ＳＫ　土坑　　ＳＲ　自然流路　　ＳＸ　不明遺構

4　本章の挿図番号、遺物番号は通し番号とし、本文・挿図・図版と一致する。

遺跡抄録

遺 跡 名	蓮華池遺跡（Ｉ）
読　　み	れんげいけ
所 在 地	板野郡板野町犬伏字堀切39-1他 Ｘ＝126.570～126.604　　Ｙ＝87.224～87.249
種　　別	散布地
時　　代	弥生・古墳・古代・中世
主な遺構	土坑・不明遺構
主な遺物	埴輪・須恵器

1　調査の経過

(1)　調査の経過と調査方法

蓮華池遺跡（Ⅰ）の分布調査による推定範囲は1,250㎡であったが、試掘調査を行った結果、遺構の広がり具合を考慮し、340㎡を対象として本調査を実施することとなった[1]（Ⅲ－第２図）。調査期間は、平成２年６月４日から同年７月５日までである。

調査にあたっては、国土座標第Ⅳ座標系を基準とした５×５ｍのメッシュによりグリッドを設定した。グリッドの配置は、北西隅より南にＡ～Ｇのアルファベットを、東に１～６のアラビア数字を配し、その組み合わせによって表現することとした。（第１図）。なお便宜上段構築されている水田区画を調査区とし、Ⅰ区からⅢ区までを設定した上で、一部調査区を縮小、または拡大して遺構の広がりに対応した。

(2)　調査日誌抄

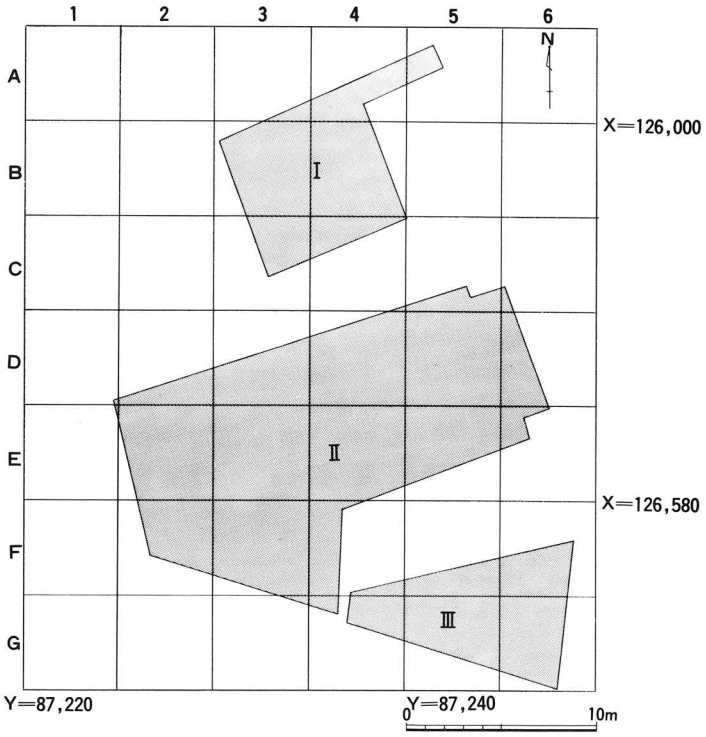
1990年

６月４日　試掘トレンチ設定。

６月５日　試掘トレンチ掘り下げ開始。家形埴輪出土。

６月６日　Ⅰ・Ⅱ区試掘トレンチ拡張。

６月11日　Ⅲ区機械掘削開始。自然流路検出。



第１図　蓮華池遺跡（Ⅰ）グリッド配置図

6月12日　Ⅰ区、Ⅲ区遺構面精査。Ⅲ区自然流路掘り下げ開始。

6月13日　Ⅰ区南側トレンチ掘削。

6月14日　Ⅱ区南側トレンチ掘削。Ⅲ区自然流路完掘。Ⅱ区南側に遺物（須恵器甕、円筒埴輪）集中地区検出。

6月19日　Ⅰ区自然流路内掘り下げ。

6月20日　1区自然流路完掘。Ⅱ区自然流路掘り下げ。

6月21日　Ⅱ区自然流路内完掘。Ⅱ区遺物集中地区をＳＸ０１とする。

6月22日　ＳＸ０１掘り下げ。

6月26日　ＳＸ０１実測。

7月３日　ＳＸ０１周壁溝検出・完掘。

7月４日　ＳＸ０１完掘。

7月５日　Ⅱ・Ⅲ区確認トレンチ掘削。調査終了。

写真４　作業風景

2　調査成果

(1)　基本層序

南東方向にのびる２つの尾根に挟まれた谷部に位置する本遺跡では、大きく２つの時期に自然流路がみられる。この流路による堆墳や谷の奥より押し出された土砂の堆積に加え、水田構築時の攪乱などによって、土層堆積は大きな影響を受けている。第２図に示したのは、Ⅰ区北壁とⅢ区北壁の状況である。１層は耕作土、２～９層は粒子の細かい砂質土が堆積したもので、谷の奥からの押し出しによる堆積層と考えられる。遺物は若干土器片がみられる程度と少ない。10・11層は自然流路ＳＲ０１の埋土、12・13層はＳＲ０２の埋土である。各調査区は、本来谷に沿って南側に下る地形上に水田が構築されていた関係で、地均しのためと思われる大きな攪乱を受けている。しかしながら自然流路の周囲は比較的良好に残存しており、特にⅢ区においては、11層は大きく広がり、ＳＲ０１の埋土であると同時に古代から中世の遺物の包含層ともなっている。また13層には埴輪や須恵器などＳＸ０１の遺物と接合関係にある遺物が多く含まれていた。

(2)　遺構の配置

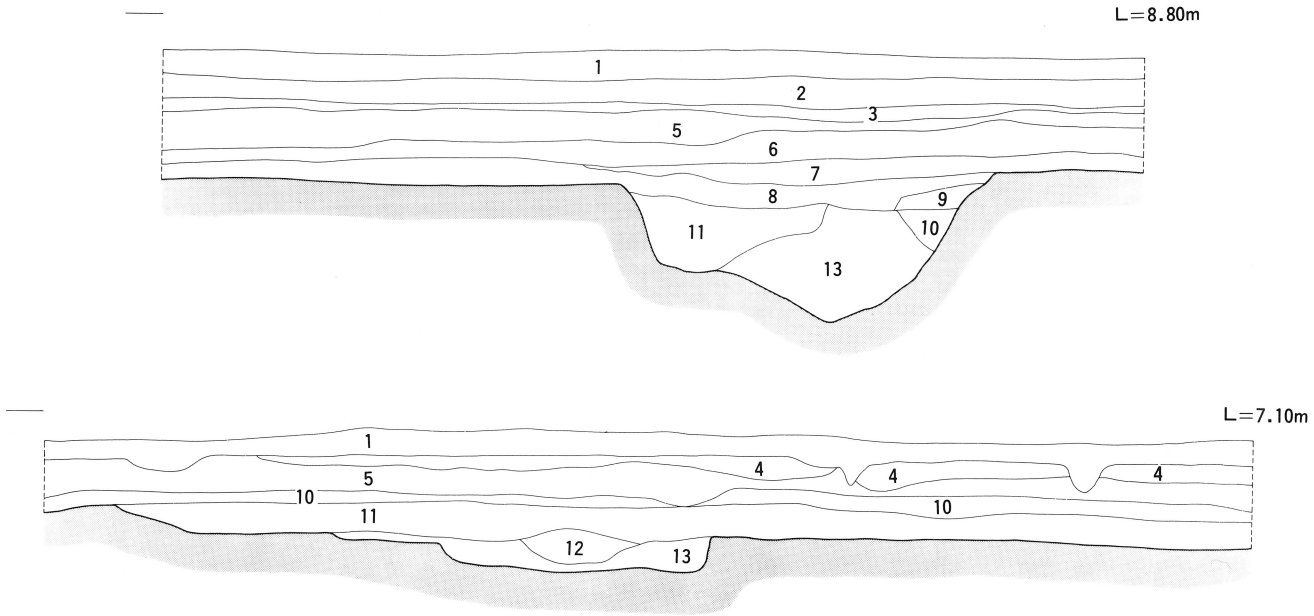
Ⅰ区南部、Ⅱ区北西部、南東部と大きな攪乱が３カ所あり、調査面積の１／３ほどを占めている。また調査区中央から東側にかけては、存続時期の異なるＳＲ０１、ＳＲ０２という２つの自然流路が南北に貫いており、Ⅲ区においては幅が広くなっている。遺構はⅡ区の自然流路の西側にＳＸ０１が、ＳＲ０１の埋没した上にＳＫ０１が構築されている程度と少ない（第３図）。

(3)　遺構と遺物

①ＳＸ０１

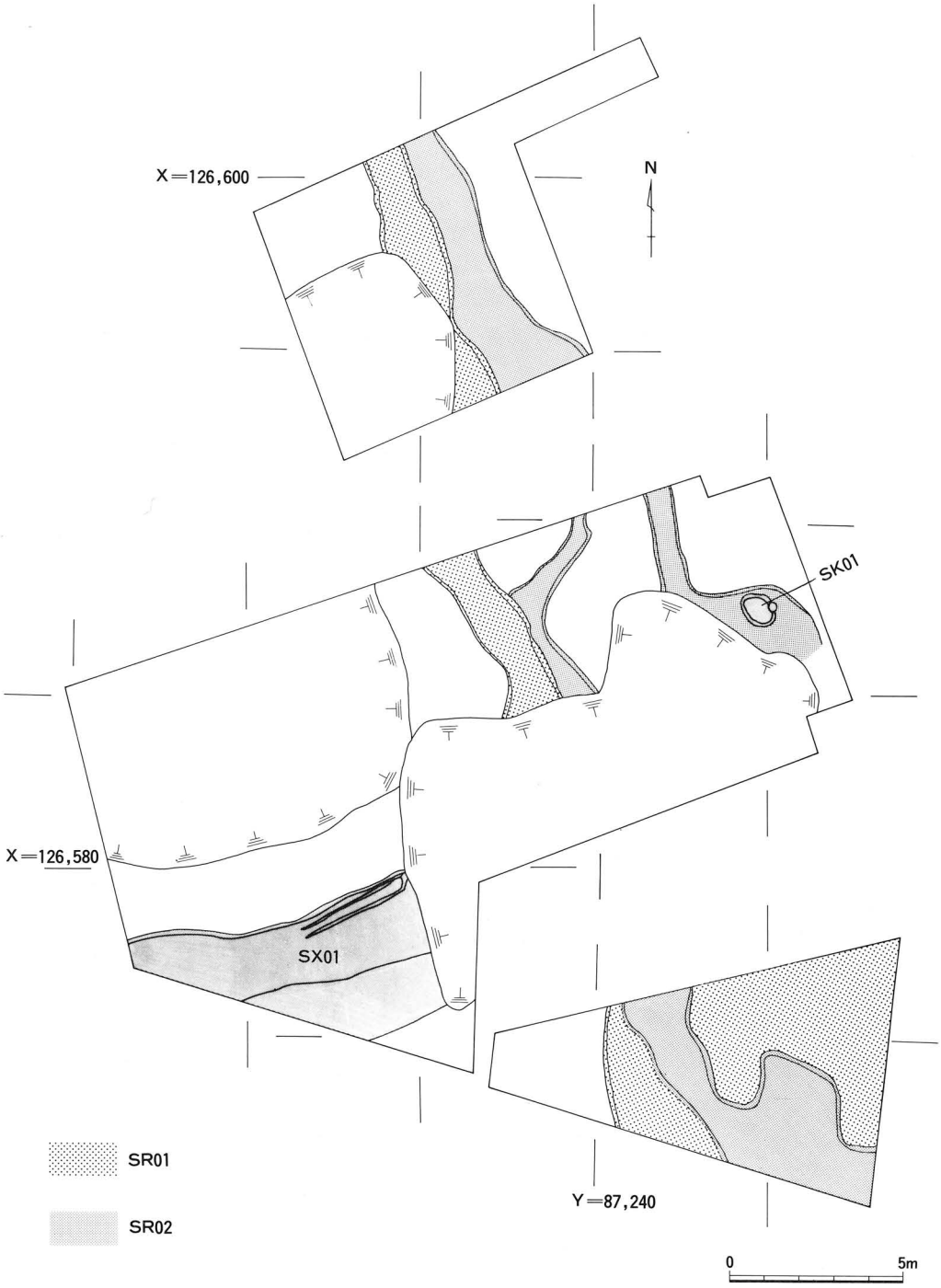
本遺構は、南辺と西辺のほとんどが調査区外にあり、また東辺は攪乱によって切られているため、本来の形状や大きさは不明である。しかし南辺においては一部本来の落ちが確認されている。

南北約4.8m、北辺残存長約8.4m、深さ約20cmで、本来はベルト状に東西に広がる遺構であったと推定される。底面は北から南へ緩やかに下る斜面となっている。遺構内には黄褐色砂質土（２、３層）や黄灰色粘質土（１層）の堆積がみられた。遺物は１、３層に多く含まれていた。２層は本遺構の南部にみられ、また遺物も少ないこと、さらに本遺構の遺物と東側に位置する自然流路中から出土した遺物の多くが接合関係にあることなどから考えて、自然流路の氾濫による堆積土とみられる（第４図）。

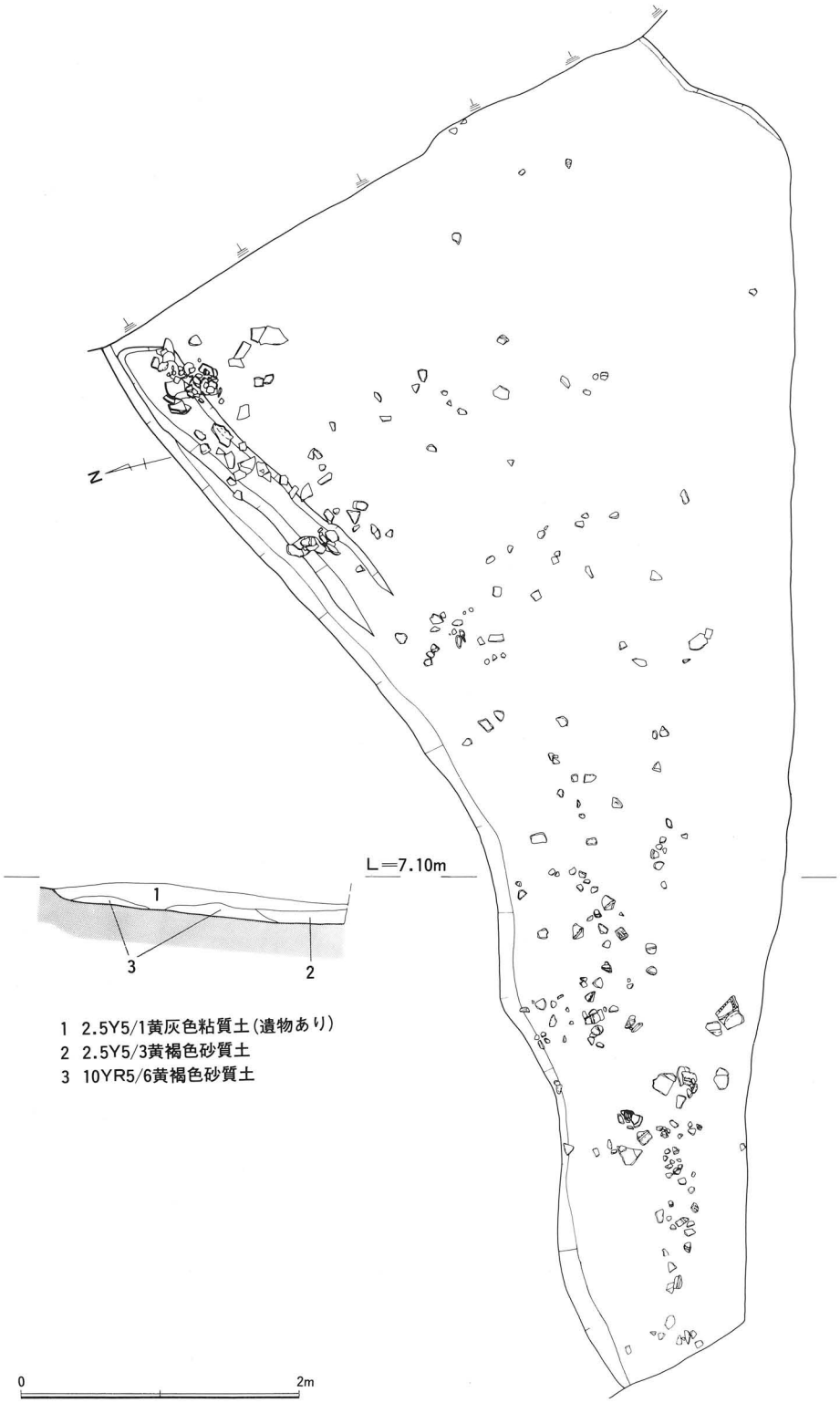


1 表　　土
2 2.5Y8/2灰白色砂質土
3 2.5Y6/8明黄褐色砂質土
4 5Y5/1灰色砂質土
5 2.5Y7/1灰白色砂質土
6 2.5Y6/1黄灰色砂質土
7 10YR7/6明黄褐色砂質土
8 2.5Y5/1黄褐色砂質土
9 10YR5/1褐灰色砂質土
10 10YR4/1褐灰色砂質土
11 10YR5/2灰黄褐色砂質土（SR01埋土及び中世遺物包含層）
12 10YR5/6黄褐色砂質土
13 10YR4/1褐灰色砂質土（SR02埋土）

第２図　蓮華池遺跡（Ｉ）土層堆積状況（1/50）



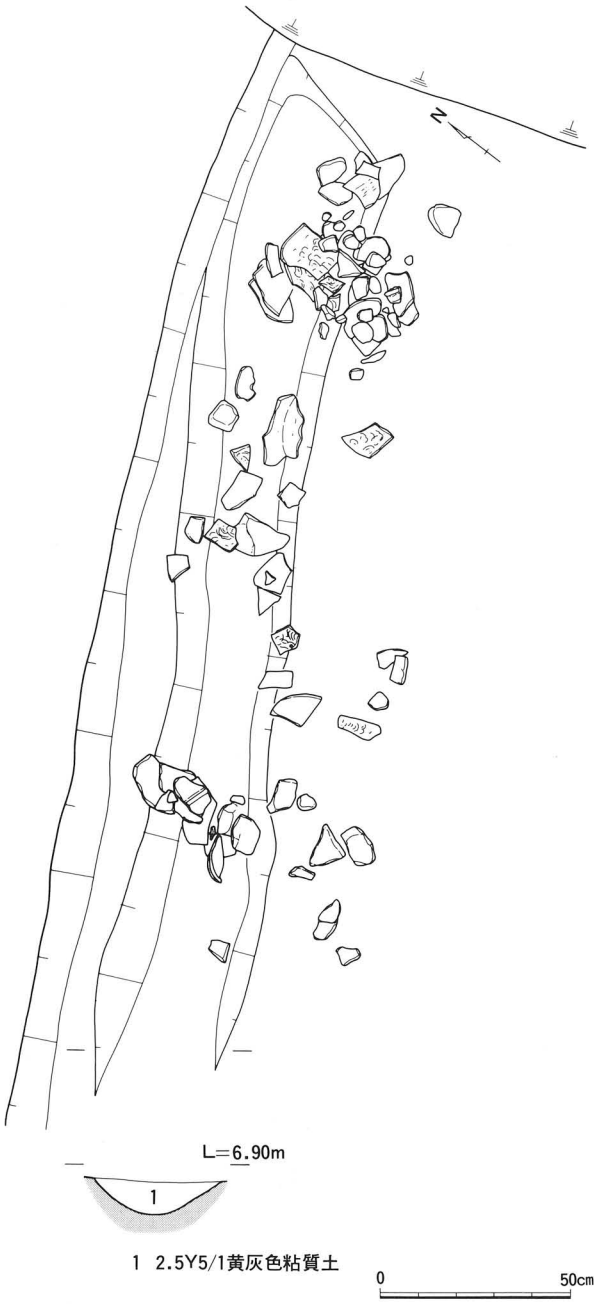
第３図　蓮華池遺跡（Ⅰ）遺構配置図


N
L=7.10m
1
2
3
1 2.5Y5/1黄灰色粘質土(遺物あり)
2 2.5Y5/3黄褐色砂質土
3 10YR5/6黄褐色砂質土
0
2m

第４図　ＳＸ０１実測図

北辺東側には、長さ約2.7m、幅約30～40cm、深さ10cm程度の直線状に延びU字型の断面を有する溝が掘削されており、溝内にも黄灰色粘質土（1層）が堆積していた（第5図）。

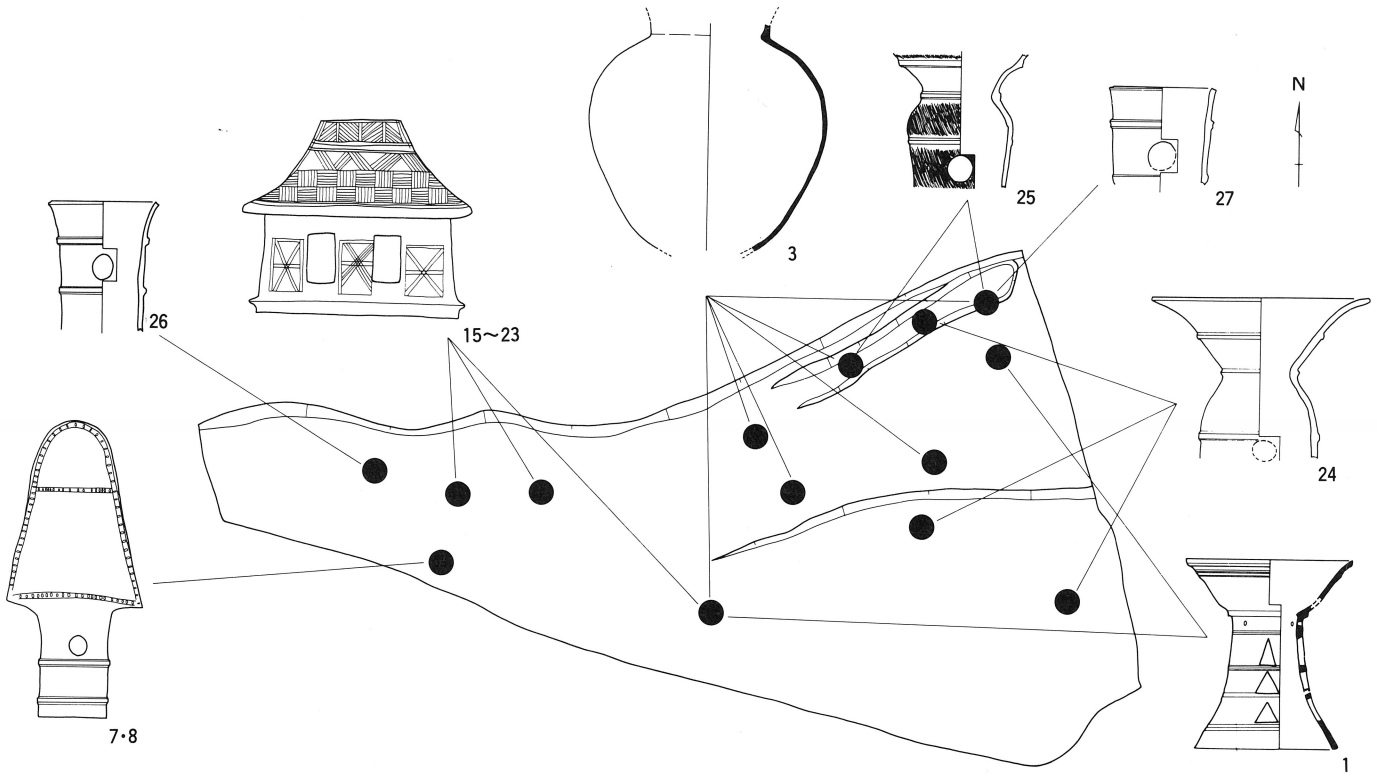
遺物は、家形、盾形などの形象埴輪、朝顔形埴輪や円筒埴輪、器台、甕などの須恵器等が多数検出された（第4～6図）。そのほとんどが北半より出土しており、中でも特に集中していたのは西側と溝周辺であった。第6図は主な遺物の出土地点である。須恵器は溝周辺が中心で、器台は北辺溝の南側と遺構中央付近より出土し、甕は北辺溝内を中心に、遺構の中央付近からも出土した。形象埴輪は盾形、家形ともに遺構西側に多くみられた。円筒系埴輪は朝顔形埴輪が北辺溝付近に集中して出土したほか、西側でもまとまって出土した。その他、復元はできなかったが、円筒埴輪の破片がほぼ全面に散らばって数多く出土している。この出土地点の分布から、遺物はほぼ全面に並べられていたとみられるが、ＳＲ０２の氾濫等によるとみられる流失によって南側には遺物が少ない。それは本遺構出土の遺物と接合関係にある遺物がＳＲ０２中から多く出土していることからも裏付けられる。



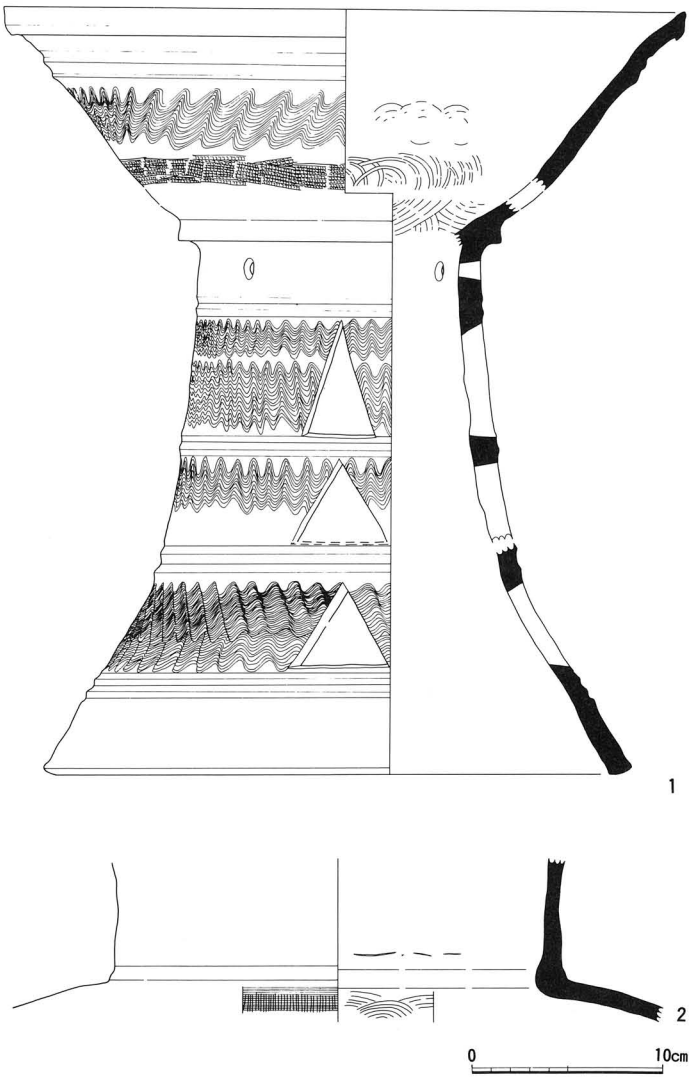
第５図　ＳＸ０１内溝実測図

古墳時代の遺物

須恵器、形象埴輪、円筒埴輪がある。いずれも破片の残存状況はよく、調整が明瞭なもの



第６図　ＳＸ０１主要遺物出土地点図



第７図　須 恵 器 (1)

も多い（第７～20図）。

須恵器には、器台（１）、甕（２・３・６）、杯身（４）、壺（５）がある。器台は、鉢部外面中位に波状文、下半に格子タタキを施し、底部内面には同心円タタキが施されている。また脚基部には断面三角形の突帯が巡る。脚部はナデによる凹線によって５段に分割され、第２段には２段、３、４段には各１段ずつ波状文が施されている。また第１段には円形の穿孔が４方に、第２段～４段には波状文と三角形の透かし孔が４方に施されている。甕には口縁部が直立気味に立ち上がるもの（２）と外上方へのびるもの（３・６）の２種があり、いずれも口縁部付近はナデによる調整が、体部外面には擬格子タタキのち回転カキメが、内面に